ITKeeper メール&Web サービス
Web ホスティング

ご利用の手引き

第 3.1 版

注意

1. 本書の内容の一部または全部を無断で複写することは禁止されております。
2. 本書の内容は事前の予告無く変更されることがあります。
3. 運用した結果の影響については責任を負いかねますので、ご注意ください。

フリーダイヤル:0120-060-799
リコージャパン株式会社
リコープロバイダ担当

ご質問はリコーセンターサービスホームページのお問合せフォーム(https://itkeeper.ricoh.co.jp/isp2/contact.html)よりお願いいたします。
ご契約内容の変更等、各種お手続きに関しましては最寄りの事業所までお問い合わせください。

(C) Ricoh Company, Ltd / RICOH JAPAN Corporation

必ずお読みください

- 株式会社リコーが提供する、メール&Web サービス（Web ホスティング）の取扱い操作説明・管理操作説明・注意事項・制約事項に付いて記述しています。
- ご契約者にご提供するディスク領域はご契約内容により異なります。
- ご契約いただいた Web ホスティングの管理 ID の変更はできません。
- Web ホスティングを直接制御するためのログインアカウント(Shell アカウント)の提供はいたしておりません。
- Web ホスティング収納サーバーの root 権限は提供できません。
- 匿名 FTP サーバーとしての運用はできません。
- ウェブデータ、お客様にて追加・修正されたアカウント等、お客様データについての保証は一切行いません。
- サーバーへの負荷が著しく高い CGI の設置などにより他のユーザー様のご利用サービスに影響が出る場合は、ご利用を制限させていただく場合がございます。
- サポート対応やメンテナンス後の動作チェックなどサービスの正常提供に必要な範囲において、お客様管理画面へログインさせていただく場合があります。管理画面へのログイン状況はセッション画面でご確認いただけます。
- ホスティングサービスの追加機能としてご提供するアプリケーションをご利用の場合、お客様のサーバーへのインストール方法までをサポート対象範囲といたします。各アプリケーションの詳細な設定、操作方法、機能説明はサポート対象範囲外となります。
- 以下の場合において一時的にサービスをご利用いただけない場合があります。
  - 弊社の電気通信設備の保守上または障害上やむをえない場合
  - 弊社が接続しているインターネット側の電気通信設備等の保守、または障害が発生した場合

お客様にて追加、修正されたアカウント情報、ウェブデータの管理等はお客様にてお願いいたします。機器障害が発生した際はサーバー設定の初期状態まで復旧を行います。ウェブコンテンツの復旧はお客様に行なって頂きます。
また、ダウンタイムについては障害の度合、内容により異なります。予めご了承くださいますようお願いいたします。

はじめに 5

第 1 章 ご提供サービス 6

1.1 Web サーバー機能 6
1.2 その他の管理機能 8

第 2 章 インターフェース 10

2.1 ユーザー分類 10
2.2 管理画面の構成 11
2.3 管理画面へのログイン 12
2.4 Web 管理画面 13

第 3 章 ホームページの管理 20

3.1 ディレクトリ構成 20
3.2 コンテンツをアップロードする 21
3.3 CGI を設置する 22
3.4 アクセスを制限する 24
3.5 アクセス状況を確認する 28
3.6 エラー表示をカスタマイズする 32
3.7 ファイルマネージャを利用する 33
3.8 SSL を利用する 35
3.9 データベースを利用する 43

第 4 章 その他の機能 47

4.1 ユーザーに Web 用領域を提供する 47
4.2 サイトの利用状況を確認する 49
4.3 サイトのバックアップと復元 50
4.4 ドメイン管理者のパスワードを変更する 55
4.5 ドメイン管理者のメールアドレスを登録・変更する 56

(C) Ricoh Company, Ltd / RICOH JAPAN Corporation

4.6　パスワードを再発行する.....57
4.7　FTP のパスワードを変更する.....58

お問い合わせ先.....60

はじめに

本書は、メール&Web サービス（Web ホスティング）をご契約いただいたお客様でドメイン管理者となられる方を対象とした、導入手順等を記述したマニュアルです。本書は以下のような構成になっています。

第1章　ご提供サービス

Web ホスティングにてご提供するサービスの概要について説明します。

第2章　インターフェース

お客様が実際に操作される管理画面について説明します。

第3章　ホームページの管理

ホームページの公開に関する各種設定方法について説明します。

第4章　その他の機能

管理パスワードの変更やサイトのバックアップ方法について説明します。

※本文中の記号について

	ご利用上のヒントになるようなポイントについて説明しています。
	ご利用にあたってご注意いただきたい事項について説明しています。
	ご利用サービスの重要な制限事項について説明しています。

第 1 章 ご提供サービス

メール&Web サービス（Web ホスティング）では、お客様のドメイン名でホームページを公開していただける「Web サーバー機能」をご提供いたします。また、ホームページの管理に必要な様々な機能を標準でご提供しています。

本章では、Web ホスティングにおいてご提供するこれらのサービスの概要について説明します。

1.1 Web サーバー機能

Web ホスティングでは以下の Web サーバー機能を提供いたします。

- CGI（Perl, SSI, Python, PHP）機能
- アクセス制限（保護ディレクトリ）
- アクセス解析
- カスタムエラー
- ファイルマネージャ
- SSL 通信機能（オプションメニュー クイック認証 SSL 運用代行をご契約いただくか、お客様にてサーバー証明書をご用意ください）

1.1.1 CGI（Perl, SSI, Python, PHP）機能

Web ホスティングではお客様の作成された独自 CGI のご利用が可能です。ご利用にあたっては第 3 章 3.3「CGI を設置する」をご参照いただき、制限事項の範囲内でご利用ください。

CGI の作成および設置方法につきましてはサポート外となります。

1.1.2 アクセス制限（保護ディレクトリ）

保護ディレクトリ機能を使用することで、お客様のホームページにパスワード認証によるアクセス制限を簡単に導入できます。

詳しくは第 3 章 3.4「アクセスを制限する」をご参照ください。

1.1.3 アクセス解析

Web サーバーへのアクセスログを分析し、Web サイト使用状況レポートを自動的に生成します。生成されたレポートはブラウザ上で表示されます。

詳しくは第 3 章 3.5「アクセス状況を確認する」をご参照ください。

Webalizer は英語版のみのご提供となっております。また、フリーウェアとして提供されておりますので、ご利用方法のサポートは行っておりません。

ログマネージャを利用すると、アクセス解析の元データとなる Web サーバーのログファイルを直接参照できます。詳しくは**第 3 章 3.5.1「ログマネージャ」**をご参照ください。

1.1.4 カスタムエラー

Web サーバーが返す“Error 404”などのエラーメッセージをカスタマイズし、任意の HTML ファイルを表示させることができます。

詳しくは**第 3 章 3.6「エラー表示をカスタマイズする」**をご参照ください。

1.1.5 ファイルマネージャ

FTP ソフトを使用せず、Web 管理画面上でお客様の Web コンテンツファイルを管理することができます。

詳しくは**第 3 章 3.7「ファイルマネージャを利用する」**をご参照ください。

1.1.6 SSL 通信機能

オプションメニュー クイック認証 SSL 運用代行をご契約いただくか、お客様にて取得された電子証明書（サーバー証明書）を Web 管理画面からインストールしていただくことにより、お客様のホームページ上で安全なデータのやり取りを可能にする SSL 通信の利用が可能になります。

詳しくは**第 3 章 3.8「SSL を利用する」**をご参照ください。

1.2　その他の管理機能

Web ホスティングでは Web サーバー機能と合わせて以下の管理機能を提供いたします。

- ユーザーへ Web 用領域の提供
- サイトレポート
- サイトのバックアップと復元
- ドメイン管理者用パスワードの変更
- ドメイン管理者用メールアドレスの変更
- パスワードリマインダー
- FTP ユーザーのパスワードの変更

1.2.1　Web 用領域の提供

ユーザーに、FTP でファイルのアップロード・ダウンロードが可能となる Web 用領域を提供することができます。

詳しくは**第 4 章 4.1「ユーザーに Web 用領域を提供する」**をご参照ください。

1.2.2　サイトレポート

お客様ドメインのホームページやトラフィック（データ転送量）、各種機能の利用状況を確認することができます。

詳しくは**第 4 章 4.2「サイトの利用状況を確認する」**をご参照ください。

1.2.3　サイトのバックアップと復元

お客様ドメインの Web コンテンツをバックアップし、サーバー上もしくはお使いのコンピュータに保存します。バックアップデータから、いつでもサイトをバックアップ時の状態に復元することができます。

詳しくは**第 4 章 4.3「サイトのバックアップと復元」**をご参照ください。

1.2.4　ドメイン管理者用パスワードの変更

ドメイン管理者は、Web 管理画面用のパスワードを変更することができます。初期パスワードはご契約時にお渡しする設定情報確認書に記載されておりますが、セキュリティを高めるために複雑なパスワードへと変更をしてください。

詳しくは**第 4 章 4.4「ドメイン管理者のパスワードを変更する」**をご参照ください。

1.2.5　ドメイン管理者用メールアドレスの変更

Web ホスティングでは、ドメインの管理者用メールアドレスを必須登録いただいております。管理者用メールアドレスにはパスワードリマインダーメールが配信されます。

ドメイン管理者のメールアドレスはお客様ご自身で任意のメールアドレスを登録することができます。詳しくは**第 4 章 4.5「ドメイン管理者のメールアドレスを登録・変更する」**をご参照ください。

1.2.6　パスワードリマインダー

Web 管理画面へのログインパスワードを忘れてしまった場合、ドメイン管理者のメールアドレスにパスワードのリセットメールを送信することができます。

詳しくは**第 4 章 4.6「パスワードを再発行する」**をご参照ください。

1.2.7　FTP ユーザーのパスワードの変更

ドメイン管理者は、FTP ユーザーのパスワードを変更することができます。セキュリティを高めるために複雑なパスワードへ変更してください。

詳しくは**第 4 章 4.7「FTP のパスワードを変更する」**をご参照ください。

第 2 章 インターフェース

本章では、お客様が実際に操作される管理画面について説明します。

2.1 ユーザー分類

ホスティングサービスにおけるユーザーには以下の 2 種類があります。

1. ドメイン管理者　　ドメイン全体を管理する権限を持つユーザー
2. ウェブユーザ　　Web 用領域を利用することができるユーザー

2.1.1 ドメイン管理者

ドメイン管理者は、Web 管理画面にログインして次の操作を実行することができます。

- 保護ディレクトリの追加・削除
- サイト使用状況の確認
- アクセスログ・エラーログ・FTP ログの確認
- セッション管理
- サイトのバックアップおよび復元

ドメイン管理者には、サーバー全体を管理する権限(サーバー管理者の root 権限)はありません。

2.1.2 ウェブユーザ

ウェブユーザは、Web 管理画面にログインすることはできません。

2.2　管理画面の構成

ホスティングサービスの主な操作は、インターネットからお客様専用の管理画面にログインして行います。

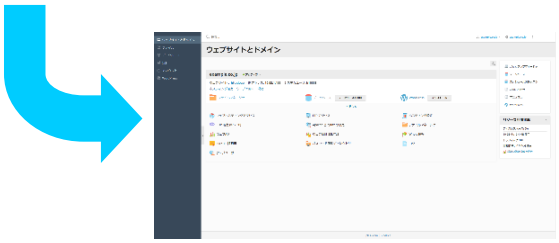
ログインする場合は、設定情報確認書の「管理画面ログイン情報」欄に記載されております「URL」（下記の形式）に、WWW ブラウザでアクセスします。

http://rdt.hosting.ricoh.co.jp/ FTP アカウント

管理画面の構成イメージ図

ログイン画面（共通）

http://rdt.hosting.ricoh.co.jp/ **FTP アカウント**



お客様専用管理画面

- お客様ドメイン名ごとに提供されます。
- お客様ドメイン名/パスワードでログインします。
- ドメイン全体のユーザー管理や各種機能設定などの管理業務を行うことができます。

下記の URL からでもログインすることができますが、セキュリティ上の理由により推奨できません。

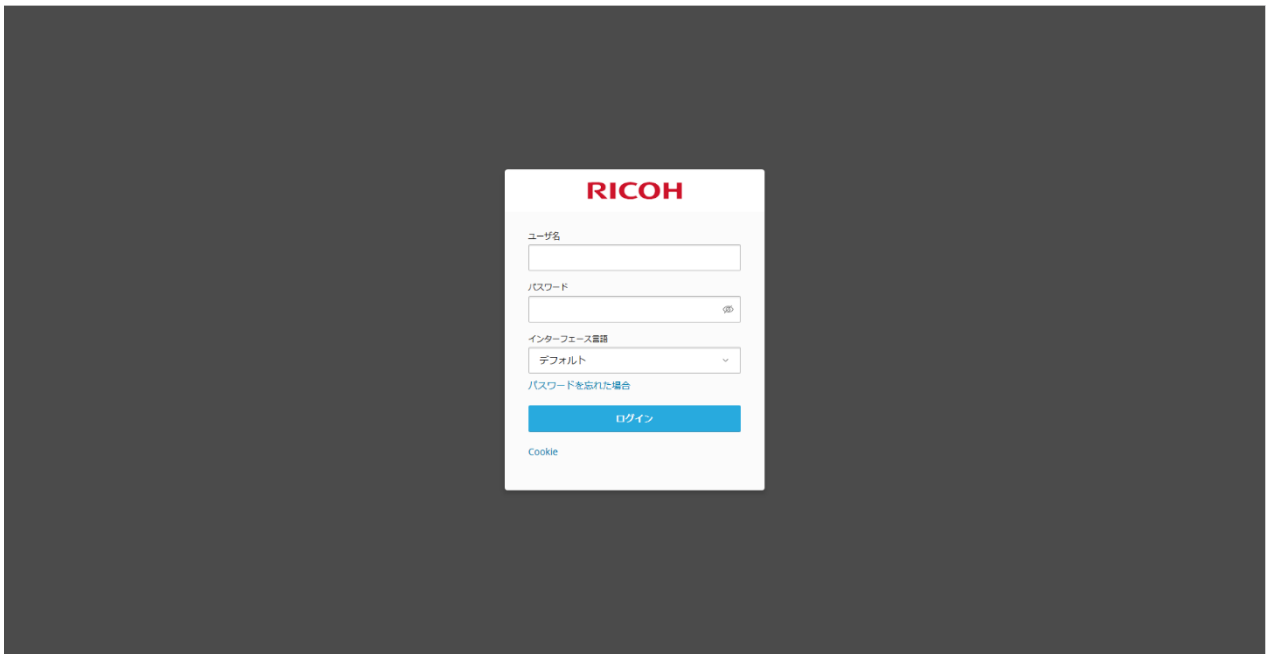
https://<お客様ドメイン名>:8443/

※ **http://rdt.hosting.ricoh.co.jp/ FTP アカウント** へアクセスできない場合は上記をお試しください。

2.3　管理画面へのログイン

参照アドレスにアクセスすると、下記のようなログイン画面が表示されます。

お客様ドメイン名とパスワードを入力し、ログインしてください。

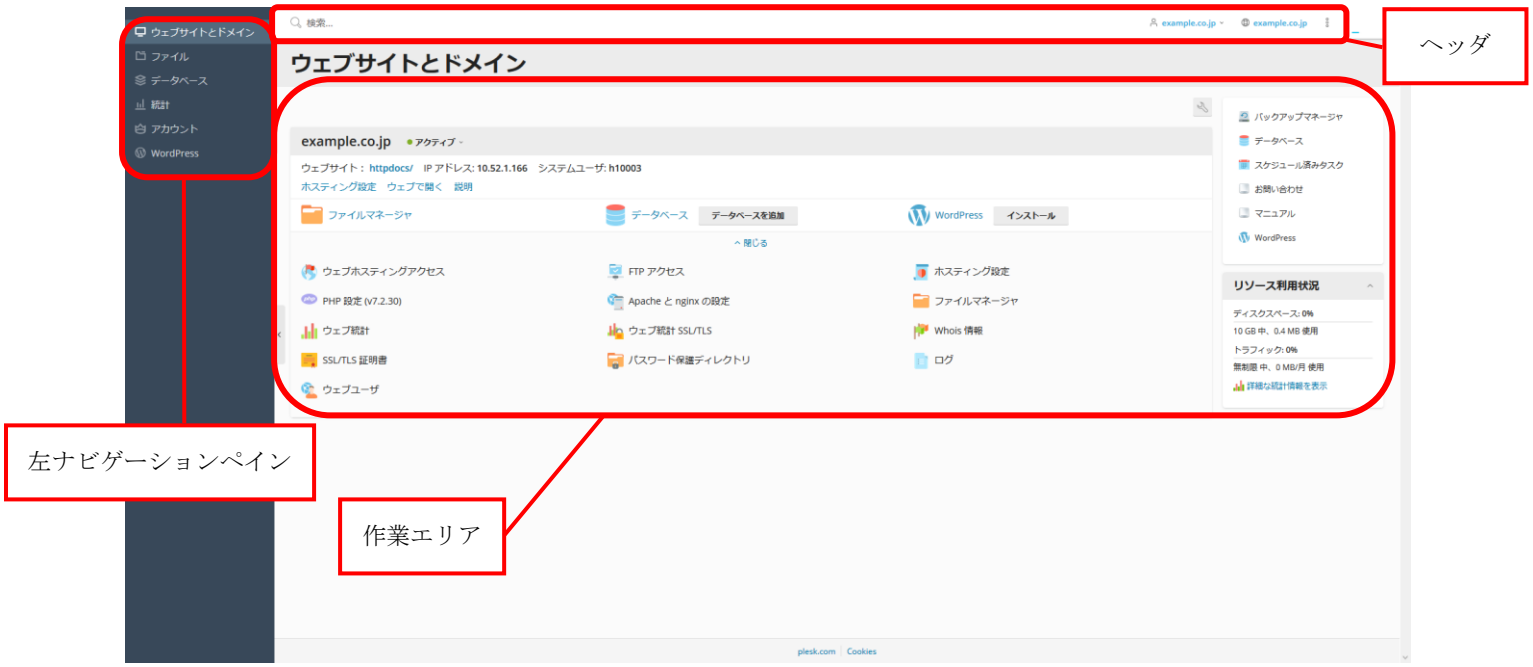


お使いのファイアウォール等の設定で 8443 番ポートへの通信が許可されていない場合、管理画面にアクセスすることができません。このような場合はセキュリティ設定の変更が必要となりますので、お客様のネットワーク管理者にご相談ください。

2.4　Web 管理画面

ドメイン管理者としてログインすると、以下の画面が表示されます。

管理画面は、ログイン名が表示されたヘッダ部分と、左ナビゲーションペイン、メイン部分となる作業エリアから構成されます。Web 管理画面の詳細については、「**第 3 章　ホームページの管理**」で解説します。



左ナビゲーションペイン内「ウェブサイトとドメイン」をクリックすると、Web 管理画面において基本となる画面が表示されます。本画面にはサービスの情報と各種ツールへのショートカットが表示されます。また、本画面は管理画面へのログイン時に最初に表示されるページでもあります。

初期構成の作業エリア(下記参照)

以下、表示される各項目について説明します。

2.4.1　左ナビゲーションペイン

・ウェブサイトとドメイン

ウェブサイトとドメイン　ウェブサイトの設定と管理を行います。

・ファイル

管理画面上でお客様の Web コンテンツファイルを管理します。

本画面上の

をクリックしても同じ設定が行えます。

・データベース

データベースの新規作成や、既存のデータベースの管理を行います。

本画面上の

をクリックしても同じ設定が行えます。

・統計

お客様サイトのご利用状況についてのレポートを表示します。

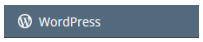
本画面上の

をクリックしても同じレポートが表示されます。

・アカウント

リソース割り当て、ホスティングオプション、Plesk で実行できる操作の権限に関する情報が表示されます。

・WordPress



Wordpress の管理を行います。

本画面上の

をクリックしても同じ設定が行えます。

WordPress インストール時のデフォルトインストールフォルダは、ドキュメントルート(httpdocs)直下になります。
ドキュメントルート(httpdocs)直下に既存の index ファイルがあった場合 WordPress の index ファイルに上書きされます。
インストール時は、事前にバックアップの取得を推奨しております。

2.4.2　作業エリア

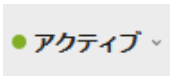
・ **ドメイン名**

example.co.jp　お客様のドメイン名が表示されます。

・ **ステータス**

「アクティブ」「一時停止」「無効化」が選択できます。

・ **アクティブ**



サイトを公開できる状態です。

・ **一時停止**

サイトの公開を一時的に停止します。
停止中、訪問者は 503 カスタムエラードキュメントページへリダイレクトされます。

・ **無効化**

サイトの公開を一時的に停止します。
停止中、サイトへアクセスするとデフォルトページが表示されます。

・ **ウェブサイト**

ウェブサイト： httpdocs/　お客様ドメインにおけるドキュメントルートが表示されます。

・ **IP アドレス**

収容サーバーのグローバル IP アドレスが表示されます。

・ **システムユーザー**

FTP アカウント名が表示されます。

・ **ホスティング設定**

ホスティング設定　お客様のドメイン環境の設定を行います

・ **ウェブで開く**

ウェブで開く　お客様ドメインのサイトが表示されます。

・ **説明**

説明　ドメインのオーナーの説明を入力します。(任意)

・ **ファイルマネージャ**

ファイルマネージャ　管理画面上でお客様の Web コンテンツファイルを管理します。

本画面上の ファイル をクリックしても同じ設定が行えます。

・ **データベース**

データベース　データベースの管理を行います。

本画面上の データベース をクリックしても同じ設定が行えます。

・ **WordPress**

WordPress　Wordpress の管理を行います。

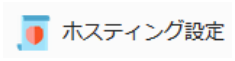
・ **ウェブホスティングアクセス**

ウェブホスティングアクセス　IP アドレスの確認、システムユーザーアカウントを管理します。

・ **FTP アクセス**

FTP アカウントを管理します。

・ **ホスティング設定**

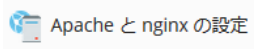


お客様のドメイン環境の設定を行います

・ **PHP 設定(v7.2.30)**

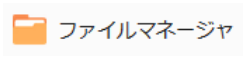
ウェブサイトの PHP 構成が表示されます。

・ **Apache と nginx の設定**



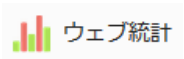
この機能はご利用いただくことはできません。

・ **ファイルマネージャ**



管理画面上でお客様の Web コンテンツファイルを管理します。

・ **ウェブ統計**

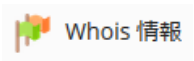


アクセスログの解析結果を表示します。

・ **ウェブ統計 SSL/TLS**

https についてアクセスログの解析結果を表示します。

・ **Whois 情報**



お客様ドメインの Whois 情報を表示します。

・ **SSL/TLS 証明書**

SSL 証明書の管理を行います。

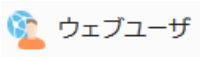
・ **パスワード保護ディレクトリ**

ディレクトリにユーザー名とパスワードによるアクセス制限を設定します。

・ **ログ**

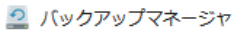
アクセスログを参照します。

・ **ウェブユーザ**



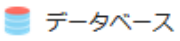
ウェブユーザーアカウントの管理を行います。

・ **バックアップマネージャ**



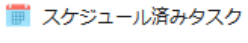
サイトのバックアップおよび復元を行います。

・ **データベース**



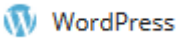
データベースの管理を行います。

・ **スケジュール済みタスク**



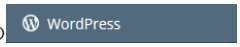
タスクのスケジュール設定を行います。

・ **WordPress**



WordPress の管理を行います。

(C) Ricoh Company, Ltd / RICOH JAPAN Corporation

本画面上の  ならびに からもインストールが可能です。

WordPress のデフォルトインストールフォルダは、ドキュメントルート(httpdocs)直下になります。
ドキュメントルート(httpdocs)直下に既存の index ファイルがあった場合 WordPress の index ファイルに上書きされます。
インストール時は、事前にバックアップの取得を推奨しております。

・ ディスクスペース

現状のディスク容量情報が一日に一度更新されます。

・ トラフィック

現状のトラフィック使用量が一日に一度更新されます。

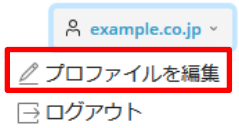
・ 詳細な統計情報を追加表示

お客様サイトのご利用状況についてのレポートを表示します。

本画面上の をクリックしても同じレポートが表示されます。

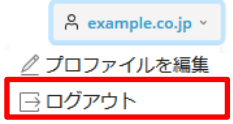
2.4.3. ヘッダ

・ ログイン名（プロファイルを編集）



ドメイン管理者アカウントの設定を行うことができます。

・ ログイン名（ログアウト）



Web 管理画面からログアウトします。

第 3 章 ホームページの管理

本章では、ホームページ管理に関する各種設定方法について説明します。

3.1 ディレクトリ構成

お客様が作成された Web コンテンツを格納するため、ホスティングサーバーのディスク上にお客様の Web 領域（ホームディレクトリ）をご用意しております。

ホームディレクトリの内部は以下のようなディレクトリ構成となっています。/httpdocs 以下はドキュメントルートと呼ばれ、WWW ブラウザからアクセス可能な領域となっています。お客様の Web コンテンツは/httpdocs ディレクトリの中に転送してください。

```
/（ホームディレクトリ）
 ├ error_docs      カスタムエラードキュメントファイルを収納します
 ├ httpdocs        お客様コンテンツを収納します（ドキュメントルート）
 │  ├ cgi-bin          使用しません（CGI プログラムの設置専用ディレクトリにすることもできます）
 │  ├ css              使用しません（削除可）
 │  ├ img              使用しません（削除可）
 │  ├ test             使用しません（削除可）
 │  ├ favicon.ico      使用しません（削除可）
 │  └ index.html       トップページ（削除・上書き可）　※サンプルページです
 └ logs            アクセスログを収納します
 └ web_users       ※こちらのディレクトリは、ウェブユーザを作ると作成されますので、
                     初期状態では存在しません
```

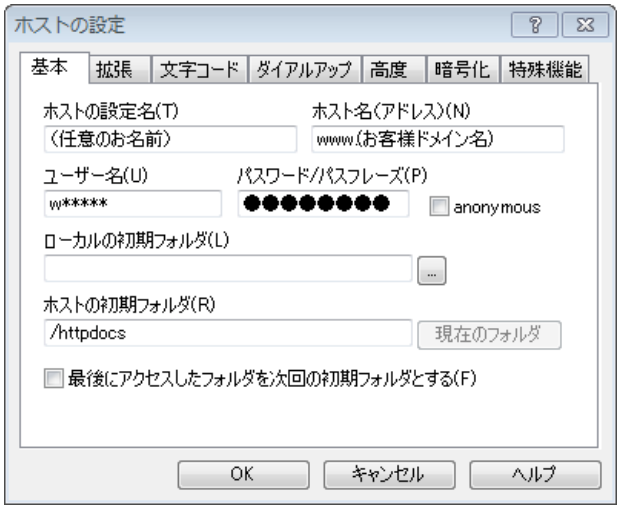
3.2　コンテンツをアップロードする

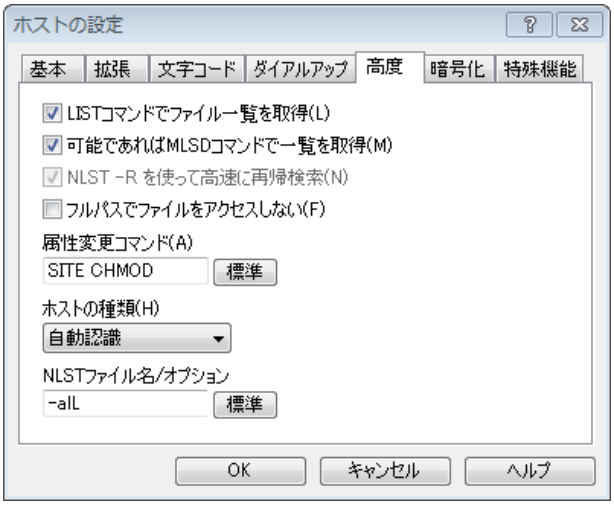
お客様が作成された Web コンテンツ(HTML ファイル、イメージ画像など)をホームページにアップロードするには、ftp コマンドや FTP ソフトを使用してサーバーに接続し、ファイルを転送してください。

ホームページ設定情報	
・URL	http://www.お客様ドメイン名
・サーバー名(接続先)	www.お客様ドメイン名
・保存ディレクトリ	/httpdocs
・FTP アカウント名	設定情報確認書に記載
・FTP パスワード	設定情報確認書に記載

参考：FFFTP の設定例

ホストの設定画面にて以下のように設定してください。





「LIST コマンドでファイル一覧を取得」チェックボックスが無効の場合、ファイル一覧が表示されません。

基本タブ入力後、高度タブが右図のように設定されていることを確認して［OK］をクリックします。

保存ディレクトリ内に「index.html」と「index.htm」が同時に存在する場合、前者が優先的に表示されます。
index ファイルの表示優先度は index.php > index.html > index.shtml > index.htm です。

cgi-bin はプログラム専用ディレクトリであり、HTML ファイル等のコンテンツを設置することはできません。

3.3　CGI を設置する

ホスティングサービスではお客様の作成された独自 CGI のご利用が可能です。CGI の作成および設置方法につきましてはサポート外となります。ご利用にあたっては下記の注意事項をご確認のうえ、制限事項の範囲内でご利用ください。

- 以下のパスは CGI プログラムを記述する際に必要となる場合があります。
  - perl:　　/usr/bin/perl
  - nkf:　　/usr/bin/nkf
  - sendmail:　　/usr/sbin/sendmail

・　CGI プログラムの拡張子は「.cgi」または「.pl」となります。

・　CGI プログラムは「cgi-bin」以外の任意のディレクトリに設置することができます。

・　SSI の拡張子は「.shtml」となります。exec コマンドは使用できません。

・　PHP の拡張子は「.php」となります。

php のバージョンは、php7.2.3 となっております。

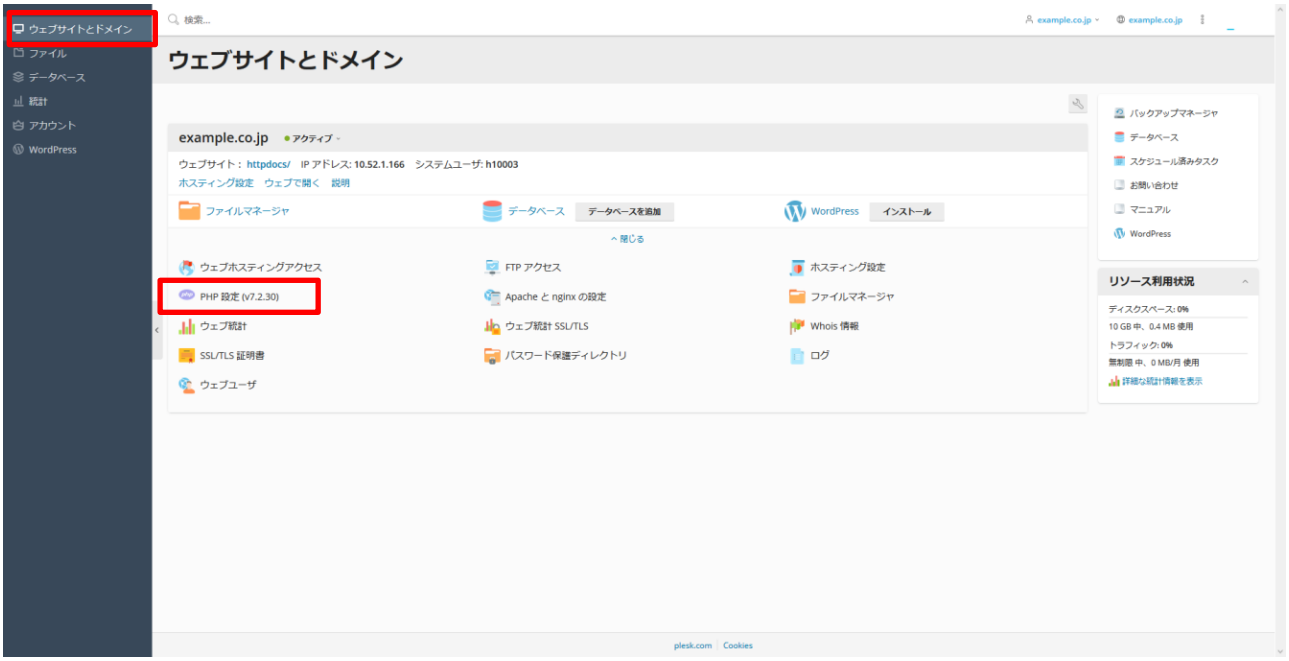
php7.2.3 は fast-cgi 版のみでのご提供となります。
モジュール版は対応不可となっております。

fast-cgi とは、プロセスを一定期間サーバー側に保持することによって、動作速度の向上を可能とするインターフェース仕様の一つです。

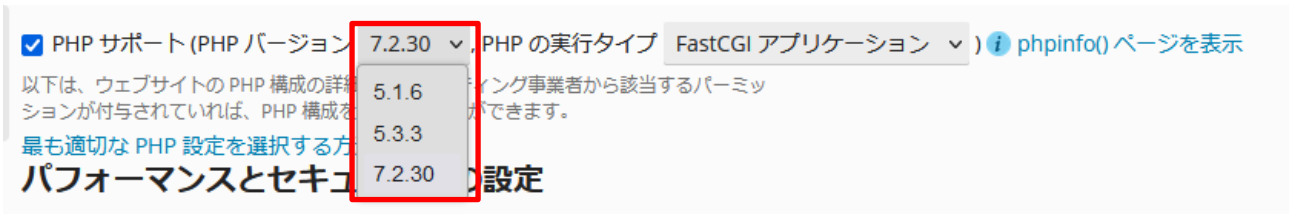
3.3.1　PHP バージョンを変更する

お客様のご利用の PHP バージョンが 7.2.3 よりも低い場合、バージョンを上げることが可能です。

1. 左ナビゲーションペイン内［ウェブサイトとドメイン］をクリックし、［PHP 設定］アイコンをクリックします。



2. プルダウンをクリックし、ご希望のバージョンを選択いただき、ページ下部の［OK］もしくは［適用］をクリックします。

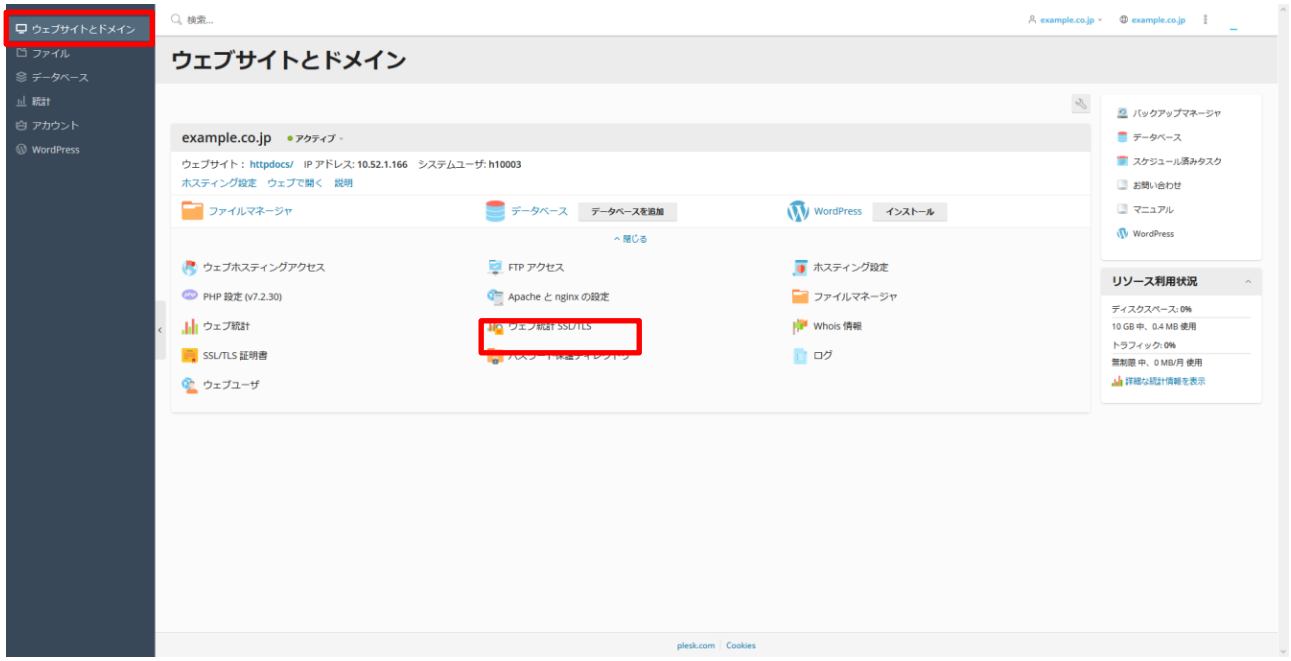


ご契約いただいているサービスや契約時期によって、選択いただけるバージョンが異なります。いずれのサービスも、バージョンの上限は 7.2.3 です。

3.4　アクセスを制限する

Web サイトの一部もしくは全部にパスワード認証機能を追加します。パスワードを知っているユーザーだけがアクセス可能な Web ページを簡単に作成できます。

3. 左ナビゲーションペイン内［ウェブサイトとドメイン］をクリックし、［パスワード保護ディレクトリ］アイコンをクリックします。



4. ［保護ディレクトリを追加］アイコンをクリックします。

※ディレクトリ名「plesk-stat」は、「ウェブ統計」をパスワード保護するために作成されています。
削除しますとパスワード制限無しに外部から「ウェブ統計」が閲覧可能となります。ご注意ください。

5. パスワード保護の必要なディレクトリの詳細を入力します。

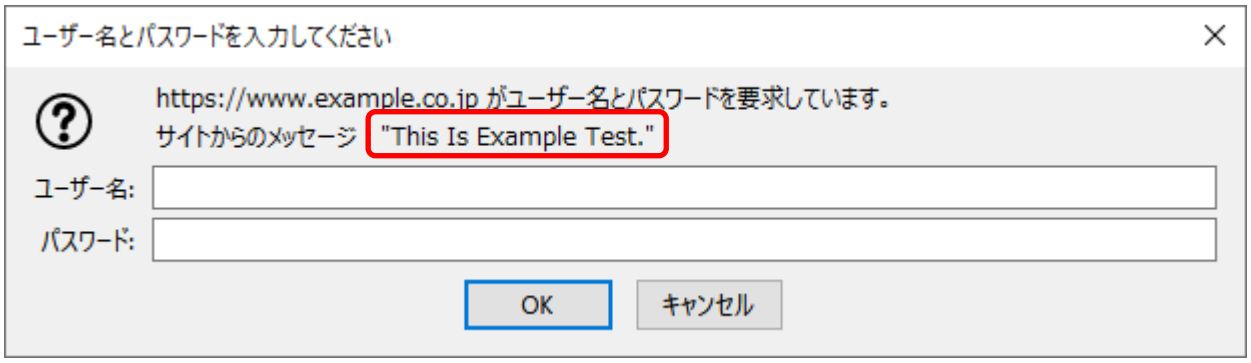
- **ディレクトリ名**

  あらかじめ作成しておいた対象ディレクトリの名前を入力します。指定されたディレクトリが作成されていない場合、自動的に作成されます。

  ディレクトリを「/A」と入力した場合は、階層「/httpdocs/A」の指定となります。

- **保護エリアのタイトル**

  保護領域の詳細、または訪問者が保護付き領域にアクセスしたときに表示されるメッセージを入力します。日本語を使用すると文字化けしますので半角英数字で入力してください。



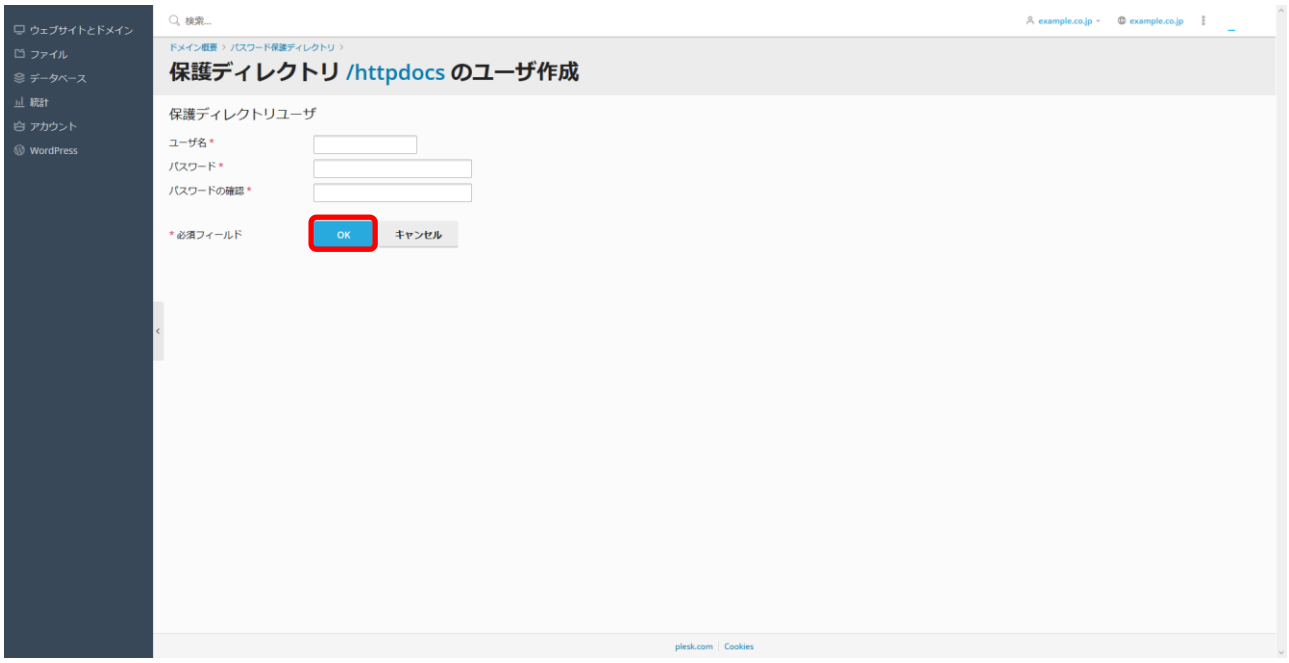
6. OK をクリックすると、指定したディレクトリがパスワードで保護されます。
保護されると、「情報：保護ディレクトリ /******(ディレクトリ名) を作成しました」と表示されます。

続けて、アクセスを許可するユーザーを追加していきます。

3.で指定したディレクトリ名をクリックします。本手順では、/httpdocs を指定したものとして進めていきます。

7. ［ユーザーを追加］アイコンをクリックします。

8. ユーザー名とパスワードを設定します。



- **ユーザー名**

  保護された領域へのアクセスに使用するログイン名を指定します。

- **新規パスワード**

  認証に使用するパスワードを入力します。パスワードは半角英数 大文字・小文字・数字・特殊文字の組み合わせで 8 文字以上指定します。空欄、2 バイト文字、引用記号（’）やユーザー名と同じ文字列を含めることはできません。

- **パスワードの確認**

  確認のために同じパスワードをもう一度入力します。

OK をクリックすると、指定したユーザー名とパスワードで保護ディレクトリにアクセスできるようになります。

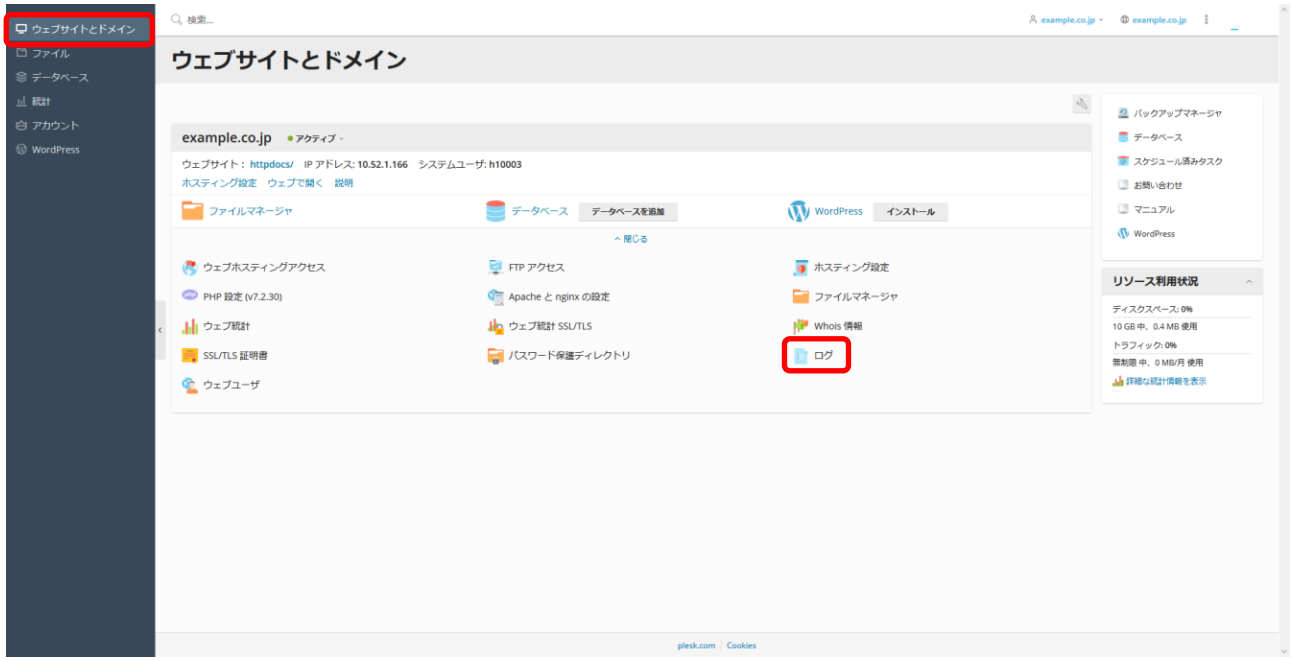
保護されたリソースに対して、許可されたユーザーを追加するには、
上記 4-6 の作業を繰り返し実行します。
追加できるユーザー数に制限はありません。

3.5　アクセス状況を確認する

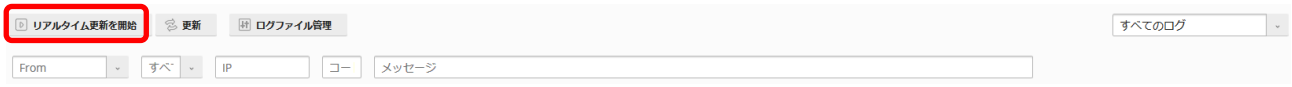
ホームページへのアクセス状況を調べるために、ホスティングサービスには「ログマネージャ」と「Webalizer」という 2 つのツールが用意されています。必要に応じてお好きな方法を選択してください。

3.5.1　ログマネージャ

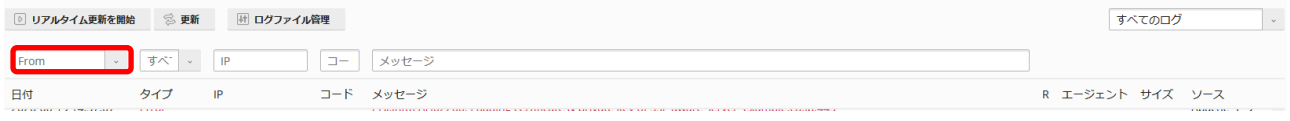
1. 左ナビゲーションペイン内［ウェブサイトとドメイン］をクリックし、［ログ］アイコンをクリックします。



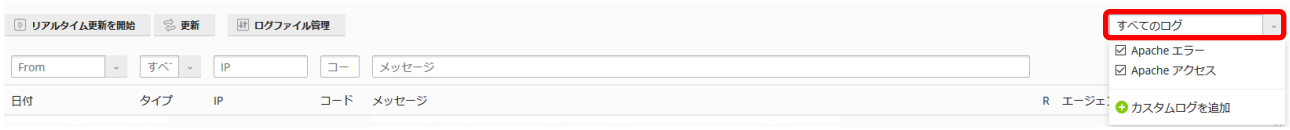
2. リアルタイムでログを更新したい場合は［リアルタイム更新を開始］をクリックします。



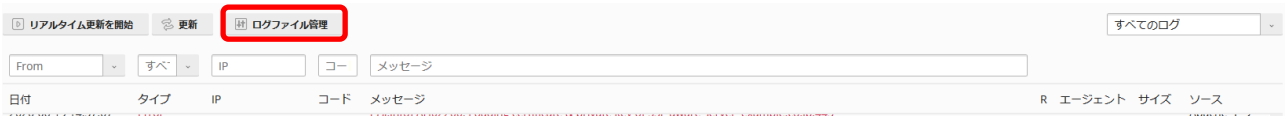
3. ［From］をクリックし、いつからのログを確認したいのかを指定します。



4. 表示させるログを絞りたい場合は［すべてのログ］をクリックして開き、必要な項目のみにチェックを入れます。



5. ログをファイルとして取得する場合は［ログファイル管理］をクリックして開きます。



6. ログをテキストファイルで確認するには、必要なファイルに対応する アイコンをクリックします。

7. ログファイルをダウンロードするには、必要なファイルに対応する アイコンをクリックします。

ログファイルの種類について

- access_log には、アクセス元・日時・要求内容・Web サーバーの応答が記録されます。
- error_log には、Web サーバーで発生したエラーの内容が記録されます。

ログファイルは 1 日単位で圧縮・ローテートされます。過去のログファイルは 30 世代前まで保存され、それ以上古いものは自動的に削除されます。

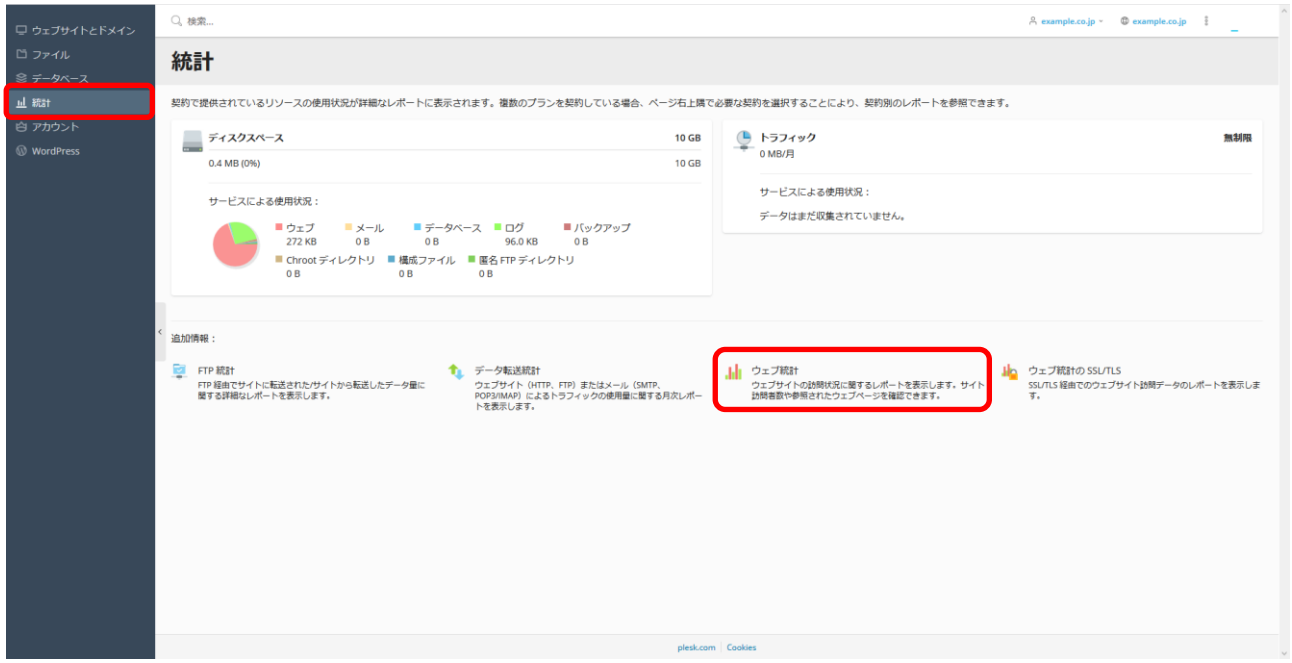
3.5.2 Webalizer

Web サーバーへのアクセスログを分析し、Web サイト使用状況レポートを自動的に生成します。

Webalizer はフリーウェアとして提供されておりますので、ご利用方法のサポートは行っておりません。

左ナビゲーションペイン内の［統計］をクリックすると、Web サイトレポート画面が表示されます。Webalizer によるアクセス解析結果を表示するには［ウェブ統計］アイコンをクリックします。

FTP ログインに使用するユーザー名とパスワードを入力すると、Webalizer によるアクセス解析結果が別ウィンドウで表示されます。確認したい月を選択すると詳細な月次レポートを表示します。



ウェブ統計をクリックすると「この Web サイトのセキュリティ証明書には問題があります」のメッセージが表示されます。本事象はサーバ仕様となるため、恐れ入りますが Webalizer アクセスの際に「継続しますか？」と出た際は「はい」を選択いただくと FTP アカウント名とパスワードを入力する画面が表示されます。

主な解析項目

項目名	説明
Hits （ヒット数）	指定されたレポート期間内にサーバーがリクエストされた数。リクエストは HTML ページ、画像、音声ファイル、CGI スクリプト等に対して行われ、サーバーに対して行われた全てのリクエストは‘Hit’と見なされます。
Files （ファイル数）	サーバーに対して、HTML ページや画像、音声ファイル、CGI スクリプト等へのリクエスト要求があった時、リクエストしたクライアントに送信される応答の数。
Pages （ページ数）	page は一般に HTML ドキュメントを指します。拡張子が“.htm”、“.html”、“.cgi”であるものは全て page と見なされます。この数は page がリクエストされた数のみを表し、ドキュメント中に含まれる画像や音声などは、‘Pages’には含まれません。
Visits （訪問数）	ある IP アドレスからサーバーへリクエストがあると、そのアドレスの直前のリクエストからの経過時間が計算されます。もし、設定された‘訪問タイムアウト’の値よりも経過時間が長い場合、あるいは初めてのリクエストの場合、これは「新規訪問」だと見なされ、‘Visits’にカウントされます。
Sites （サイト数）	指定されたレポート期間にサーバーへリクエストを行った IP アドレス（サイト）の個別の件数を表します。個々のユーザー(実際の人)の数ではなく、何件のサイトからリクエストがなされたかを示しています。
Kbytes （転送量）	指定された期間にサーバーからクライアントへ送信されたデータの総量（キロバイト）を表します。

‘Hits’と‘Files’の関係は、‘リクエスト入力’と‘レスポンス出力’と考えることもできます。

Webalizer についてのさらに詳しい情報を入手するには、http://www.webalizer.com/（英語版公式サイト）をご参照ください。

3.6 エラー表示をカスタマイズする

Web サーバーが返す“Error 404”などのエラーメッセージをカスタマイズし、エラーの内容に応じて任意の HTML ファイルを表示させることができます。具体的には、あらかじめ定められた名前のエラーメッセージ・ファイルを所定のディレクトリに FTP で転送することにより、ブラウザ上に表示されるエラーメッセージをカスタマイズします。

1. 表示させたいエラーメッセージ・ファイルを作成し、所定のファイル名（下表参照）で保存します。
2. FTP でログインし、/error_docs ディレクトリに移動します。
3. エラーメッセージ・ファイルをアップロードします。

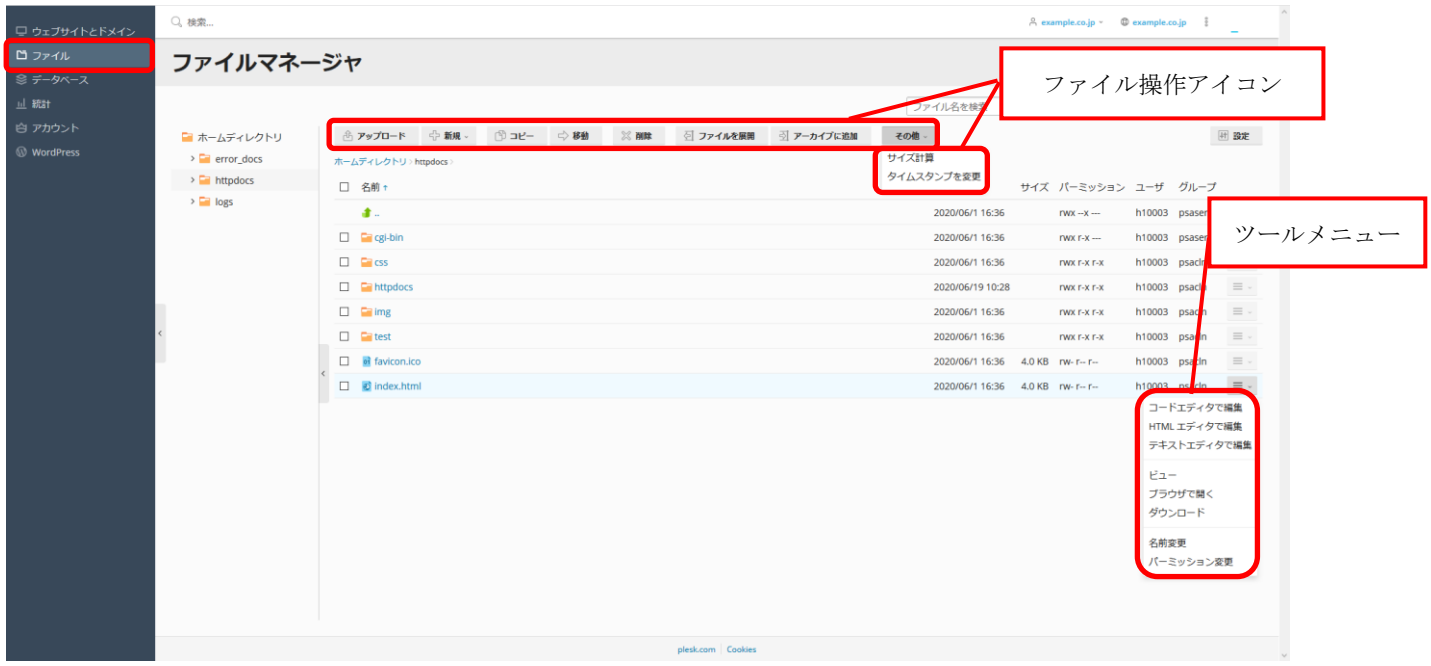
コード	応答	意味（例）	エラーメッセージ・ファイル名
400	Bad Request	URL の指定方法に誤りがある	bad_request.html
401	Unauthorized	パスワード認証ページで入力したパスワードが間違っている	unauthorized.html
403	Forbidden	アクセスが禁止されているページにアクセスしようとしている	forbidden.html
404	Not Found	存在しないURLにアクセスしようとしている	not_found.html
405	Method Not Allowed	リクエスト中のメソッドが許可されていない	method_not_allowed.html
406	Not Acceptable	リクエストされるリソースは受理できない	not_acceptable.html
407	Proxy Authentication Required	クライアントは最初にプロキシに対する認証を行なわなければならない	proxy_authentication_required.html
412	Precondition Failed	一つ以上のリクエストヘッダフィールドで与えられた前提条件が、サーバーでテストされたときに偽であると評価された	precondition_failed.html
414	Request-URI Too Long	サーバーが中間処理のために想定している Request-URI より長いため、サーバーはリクエストのサービスを拒否している	request-uri_too_long.html
415	Unsupported Media Type	リクエストのエンティティのフォーマットをリクエストされたリソースがサポートしていない	unsupported_media_type.html
500	Internal Server Error	CGI 等が原因でサーバー内部エラーが発生している	internal_server_error.html
501	Not Implemented	サーバーはリクエストを実行するのに必要な機能をサポートしていない	not_implemented.html
502	Bad gateway	ゲートウェイやプロキシなど中間処理を行うサーバーが不正なレスポンスを受け取った	bad_gateway.html
503	Service Temporarily Unavailable	過負荷やメンテナンスで一時的にサーバー使用不可能である	maintenance.html

3.7　ファイルマネージャを利用する

FTP ソフトを使用せず、Web 管理画面上でお客様の Web コンテンツファイルを管理・編集することができます。

ファイルマネージャからファイル名をクリックすると「コードエディター」で自動的に開かれます。
※SJISなどの古いコードを利用していると文字化けして修復不可能になるため
開いた際に文字化けをしていた場合は、保存はしないでキャンセルしてください。
ファイルマネージャから直接ファイルの内容を修正する場合は、必ず事前にバックアップを取得してから修正していただくようお願いします。

1. 左ナビゲーションペイン内［ウェブサイトとドメイン］をクリックし、タブ［ファイル］をクリックすると、次の画面が表示されます。



2. ファイル操作アイコンを使用して、チェックボックスで選択されたファイルやディレクトリに対して次の操作を実行できます。

- アップロード　ディレクトリにファイルをアップロードします。

ファイルアップロードでは、1 度に複数のファイルをアップロードすることも可能ですが、Web サーバーの高負荷を招く恐れもございます。
アップロードに時間がかかる場合などは、1 ファイルごとアップロードしていただくようお願い致します。

- 新規　ディレクトリに新しいファイル・ディレクトリを作成します。
  新しいファイルに HTML タグを挿入できるようにするには、[HTML テンプレートを使用] チェックボックスを選択して［OK］をクリックします。その後ファイルマネージャから該当のファイルをクリックして[コードエディタ]を開くか、ツールメニューから[コードエディタで編集][HTML エディタで編集][テキストエディタで編集]のいずれか任意の項目をクリックし編集画面を開きます。ここで新しいファイルのソースを入力することができます。編集が完了したら、エンコード、改行タイプを選択して［OK］をクリックします。
- コピー　ディレクトリやファイルを新しい位置にコピーします。
- 移動　ディレクトリやファイルを新しい位置に移動します。
- 削除　ディレクトリやファイルを削除します。
- ファイルを展開　アーカイブを展開します。
- アーカイブに追加　アーカイブを作成します。
- その他
  - ［サイズ計算］　選択されたファイルやディレクトリの容量を計算します。
  - ［タイムスタンプを変更］　タイムスタンプが現在のローカルタイムで更新されます。
- 設定　ファイルマネージャのレイアウトとファイルマネージャ内におけるコンテンツの表示方法を変更します。

3. ツールメニューを使用して、以下の操作を実行することができます。

- ［コードエディタで編集］　ファイルのソースをコードエディタで編集します。
- ［HTML エディタで編集］　ファイルのソースを HTML エディタで編集します。
- ［テキストエディタで編集］　ファイルのソースをテキストエディタで編集します。
- ［ビュー］　ファイルの内容を表示します。
- ［ブラウザで開く］　ファイルまたはディレクトリをブラウザで開きます。
- ［ダウンロード］　ファイルをダウンロードします。
- ［名前変更］　ファイルまたはディレクトリの名前を変更します。
- ［パーミッション変更］　ファイルまたはディレクトリのパーミッションを変更します。

3.8　SSL を利用する

お客様にて認証局より取得された電子証明書（サーバー証明書）を Web 管理画面からインストールしていただくことにより、お客様のホームページ上で安全なデータのやり取りを可能にする SSL 通信の利用が可能になります。

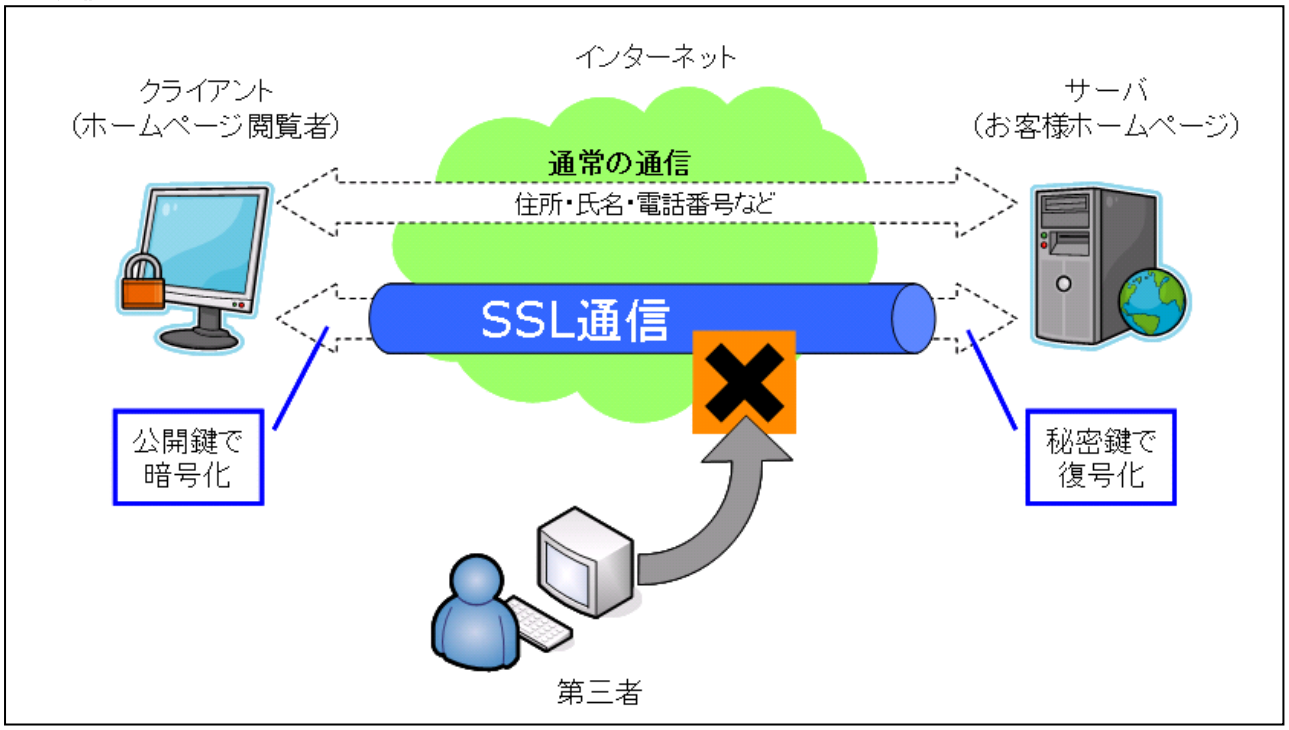
SSL 導入後、お客様にて［https://～］へ転送させる設定を実施していただく必要がございます。設定方法は、「**3.8.4　HTTP から HTTPS へのリダイレクト設定**」をご確認ください。
オプションメニュー クイック認証 SSL 運用代行をご契約頂いたお客様へは、サーバー証明書の取得からインストールまで全て代行いたしますので、本章の作業は必要ございません。

3.8.1　SSL の概要

個人情報保護法が 2005 年 4 月より施行されるなど、セキュリティに対する関心が高まる中、ホームページ上での情報のやりとりにもセキュリティ向上が求められてきています。通常、ホームページ上でやりとりされるデータは暗号化されておらず、悪意のある人物によってデータを盗み見られたり、改ざん等がなされたりする危険性が潜んでいます。

SSL(Secure Socket Layer)通信機能を利用すると、サイトごとに独自に用意された秘密鍵と公開鍵を用いてデータを暗号化して通信することにより、訪問者がホームページ上で難しい操作を意識せずに、安全にデータのやり取りを行う事ができます。

SSL 通信イメージ図



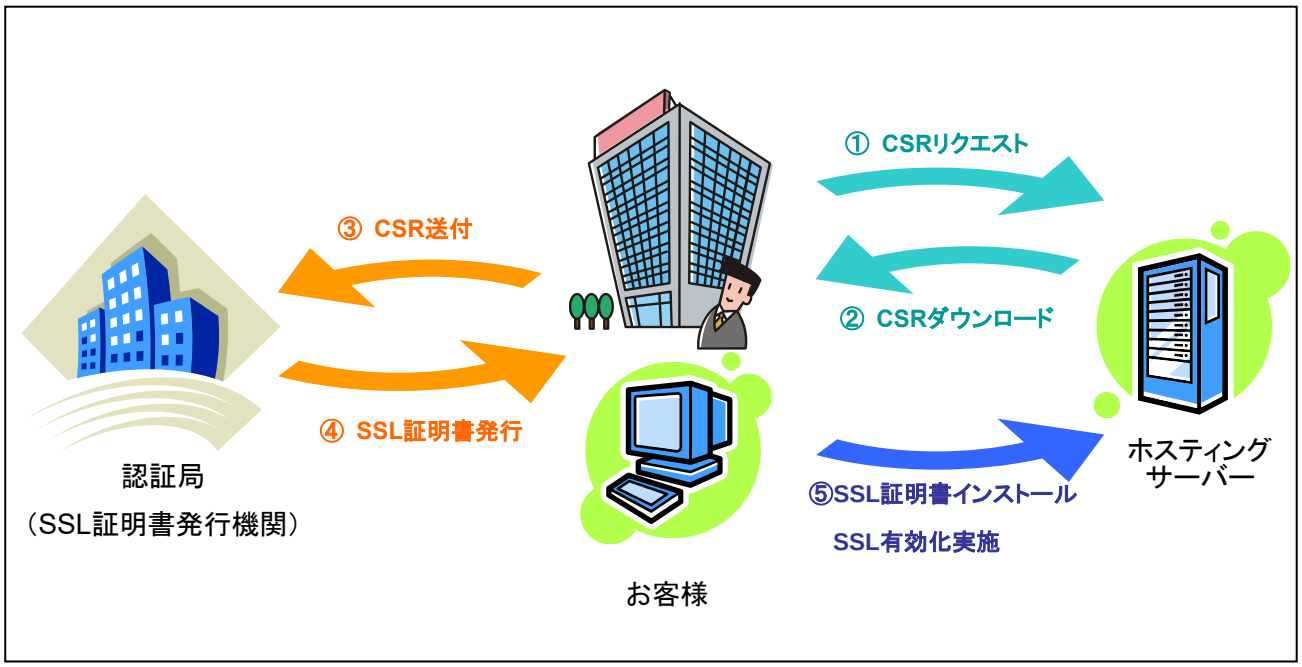
オンラインショッピングサイトやアンケートページ、資料請求ページを公開される場合、氏名、住所、電話番号等の個人情報や、クレジットカード番号等の重要な情報のやり取りが発生します。サイトからこのような情報を送信するページを設けている場合には、セキュリティ向上のため、SSL 通信機能を備えることが望ましいといえます。

3.8.2　SSL 導入までの流れ

SSL 機能を利用するためには、認証局と呼ばれる SSL 証明書発行機関が発行する SSL 証明書をサーバーにインストールする必要があります。また、SSL 証明書の申し込みには CSR（証明書署名リクエスト）と呼ばれるデータファイルが必要となります。

ホスティングサービスでは、CSR の作成、取得から SSL 証明書のインストールまでの一連の作業を、お客様ご自身で実施していただくことができます。

SSL 導入手順のイメージ図



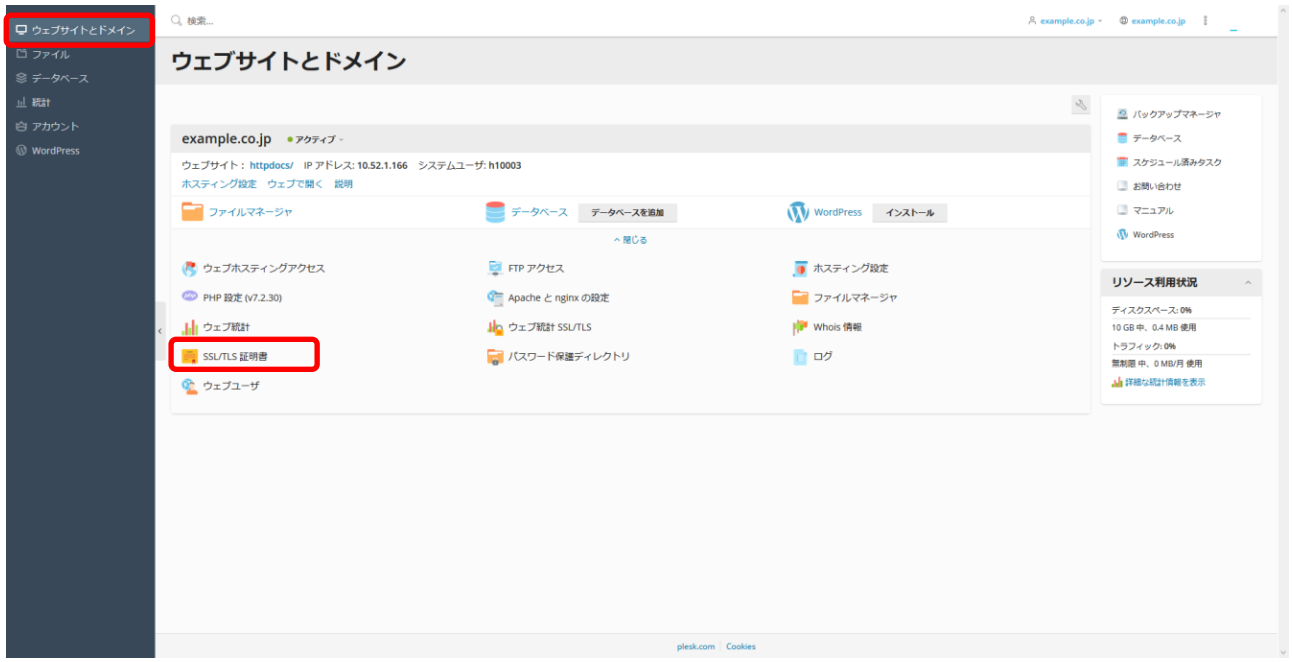
SSL 証明書の取得には別途費用が発生いたします。料金やお手続き等の詳細につきましては証明書を申し込まれる認証局までお問い合わせください。

SSL 証明書には有効期限があります。期限切れを避けるためには更新のお手続きが必要となります。有効期限の確認方法や更新のお手続きにつきましては、ご契約されている認証局までお問い合わせください。

弊社ホスティングサービスでは Web サーバーアプリケーションとして Apache ＋ OpenSSL を使用しております（認証局へのお手続き時にこの情報が必要になる場合があります）。

3.8.3 SSL の導入方法

1. 左ナビゲーションペイン内［ウェブサイトとドメイン］をクリックし、［SSL/TLS 証明書］アイコンをクリックします。



2. ［SSL/TLS 証明書を追加］をクリックします。

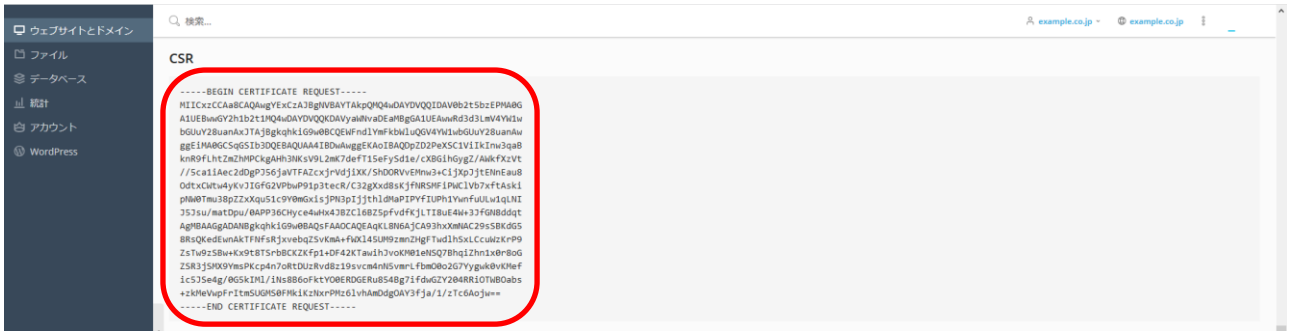
3. 赤枠内の必要事項を入力し［リクエスト］をクリックすると CSR が生成されます。

※CSR とは認証局に提出する「署名リクエスト」の事であり、SSL 証明書を申請する際必要となります。

- 証明書名　　管理画面上で証明書を識別するのに役立ちます。
- ビット数　　2048 ビット、3072 ビット、4096 ビットから選択できます。
- 場所、組織名　　入力できるのは 64 文字までです。
- ドメイン名　　（正しい例）www.example.net　（不十分な例）example.net
- メールアドレス　　ドメイン管理者のメールアドレスを入力します。

4. 証明書一覧画面にて、作成した［証明書名］をクリックします。

5. [CSR]欄に表示されている[-----BEGIN CERTIFICATE REQUEST-----]から[-----END CERTIFICATE REQUEST-----]までをコピーし、認証局にメール等で送付し「SSL 証明書」発行を待ちます。



認証局によってはホームページ上の入力フォームに CSR のテキスト入力を求められる場合もあります。詳しくは認証局の問い合わせ窓口までご相談ください。

6. 認証局より「SSL 証明書」が届いたら、下記どちらかの方法でアップロードします。

＜証明書ファイルをアップロード＞

① 「証明書（*.crt)」右の［参照］ボタンをクリックし、証明書ファイルを選び［開く］をクリックします。

② 必要であれば「CA 証明書(*.-ca.crt)」右の［参照］ボタンをクリックし、CA 証明書ファイルを選択して［開く］をクリックします

③ アップロードしたい「証明書ファイル」名が表示されたことを確認し、［証明書をアップロード］ボタンをクリックします。

＜証明書をテキスト形式でアップロード＞

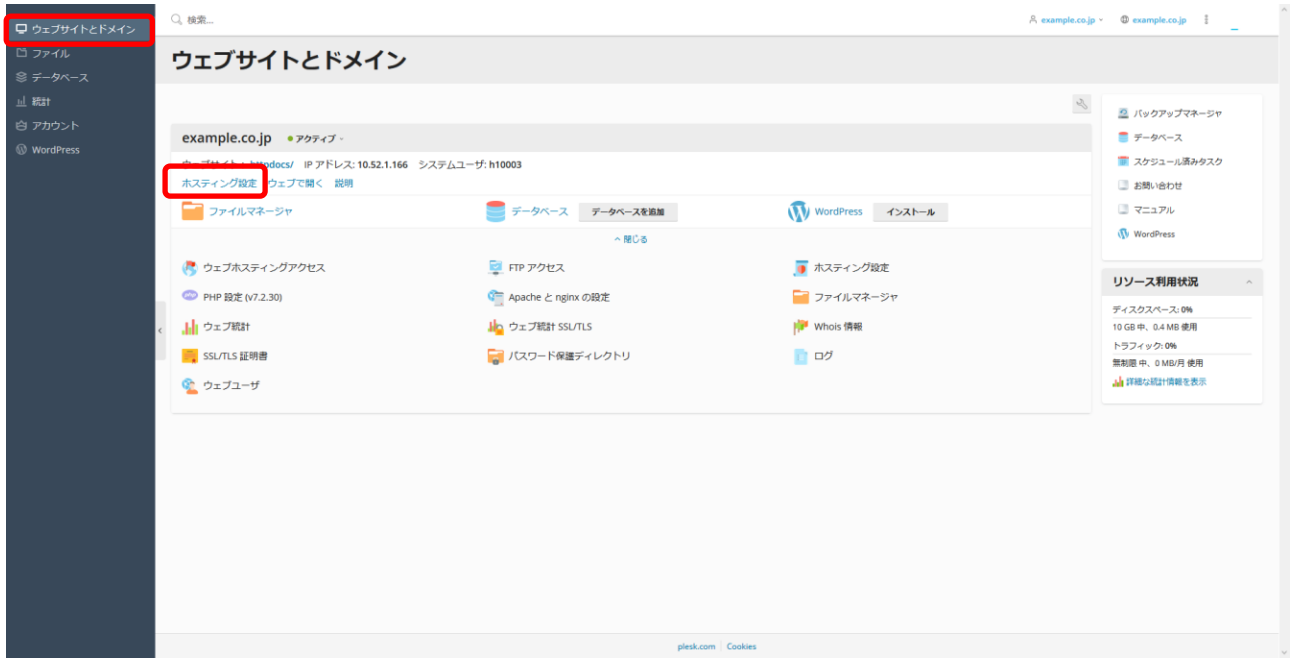
① 認証局から届いた証明書のテキストをコピーし、「証明書（*.crt)」の枠の中に貼付けます。

② 必要であれば CA 証明書のテキストもコピーし、「CA 証明書(*.-ca.crt)」の枠の中に貼付けます。

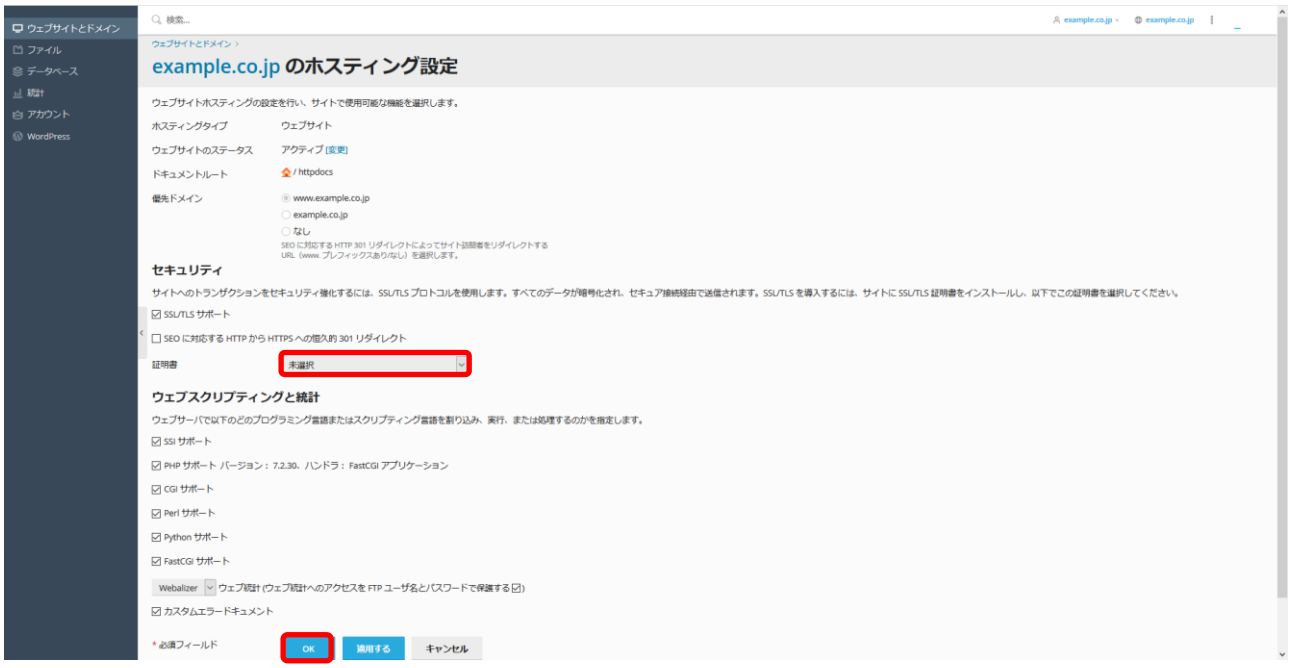
③ ［証明書をアップロード］ボタンをクリックします。

「警告：CA 証明書が証明書に署名をしません。」と表示される場合があります。
アップロードされた内容が、証明書欄・CA 証明書欄に記載されていれば問題はございません。

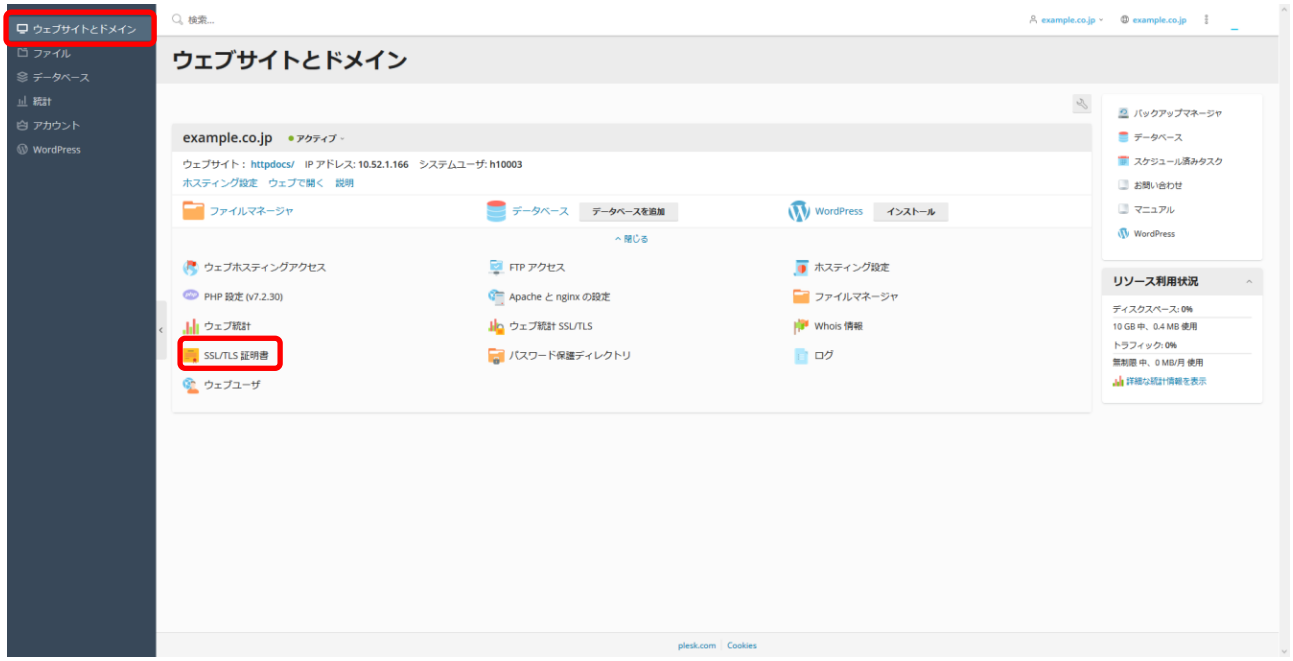
7. 証明書アップロード完了後は証明書を①「有効化」する必要があります。
タブ［ウエブサイトとドメイン］をクリックし、［ホスティング設定］をクリックします。



8. 「証明書」欄のプルダウンメニューにて、作成した証明書名を選択し［OK］をクリックします。



9. 再度、タブ［ウェブサイトとドメイン］をクリックし、［SSL/TLS 証明書］アイコンをクリックします。

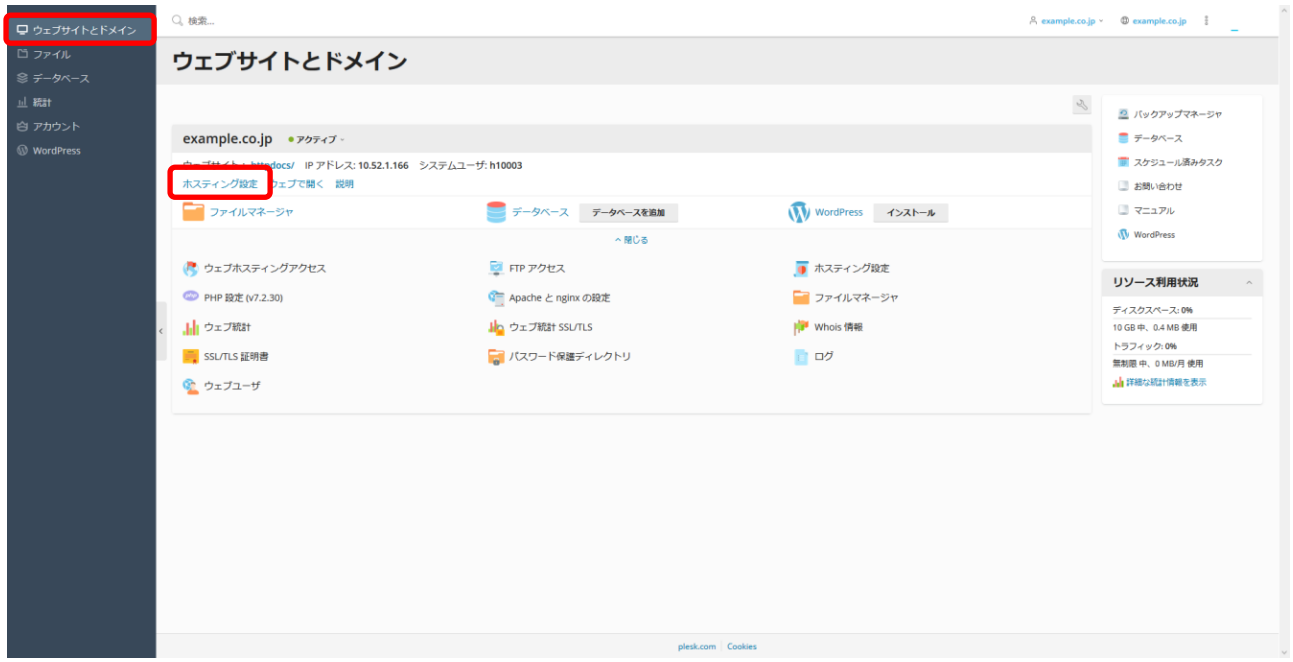


10. 作成した証明書名右側の「使用中」が「１」と表示されていることを確認します。

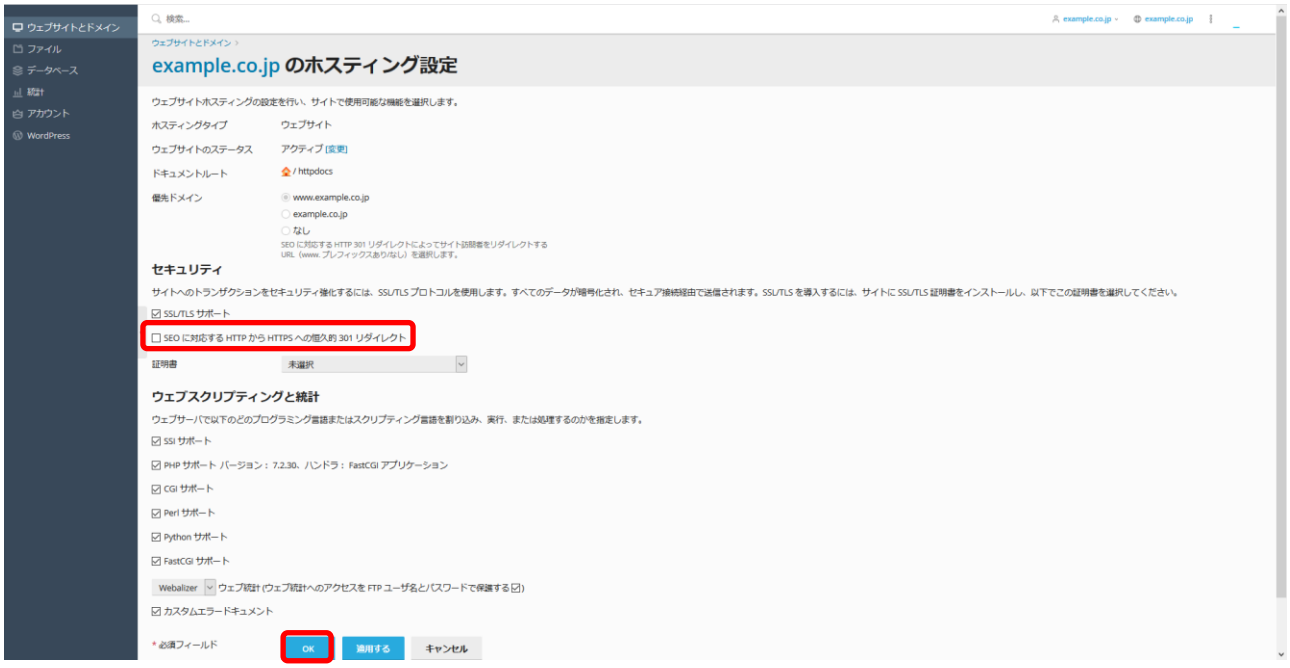
以上で SSL の有効化が完了し、SSL をご利用いただける状態となります。

3.8.4 HTTP から HTTPS へのリダイレクト設定

1. 左ナビゲーションペイン内［ウェブサイトとドメイン］をクリックし、［ホスティング設定］をクリックします。



2. ［セキュリティ］内の［SEO に対応する HTTP から HTTPS への恒久的 301 リダイレクト］にチェックを入れ、［OK］をクリックします。



［ウェブスクリプティングと統計］内の設定を変更しますと、該当プログラムが機能しなくなりますのでご注意ください。
例）[PHP サポート]のチェックを外すと PHP が動かなくなる。等

3.9　データベースを利用する

MySQL によるデータベース機能をご利用いただけます。

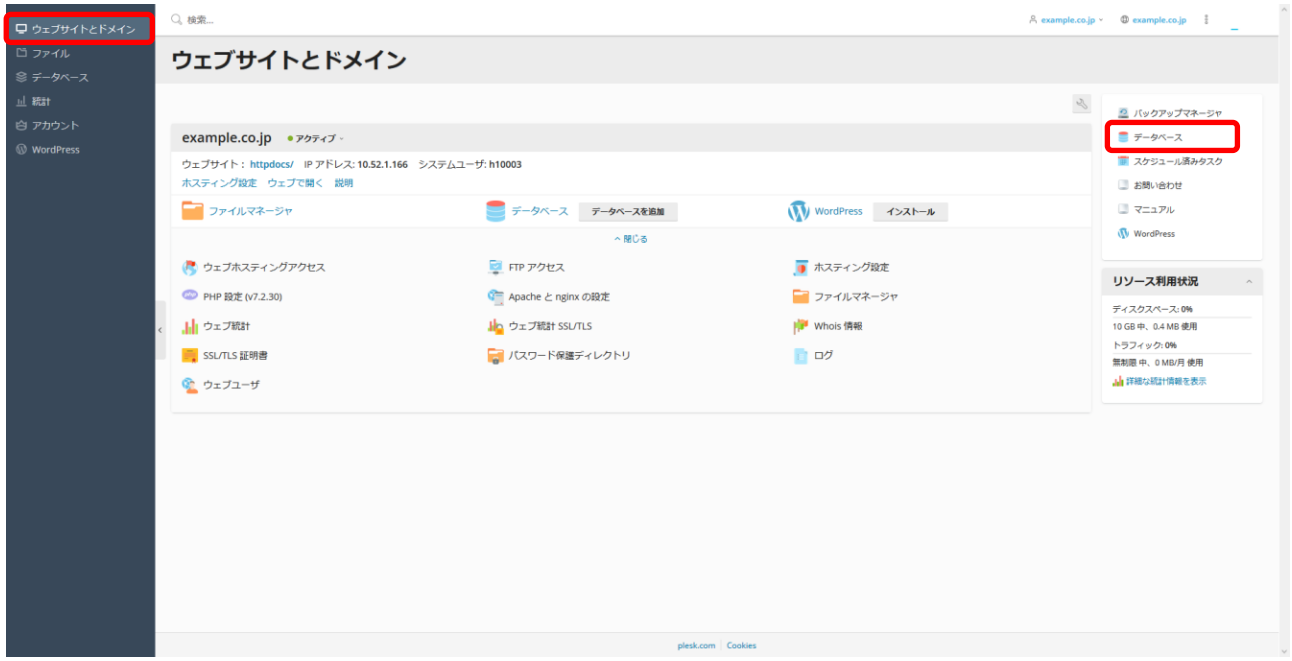
作成できるデータベースは 1 ドメインにつき 1 個までとなります。

データベースの操作方法についてはサポート外となります。

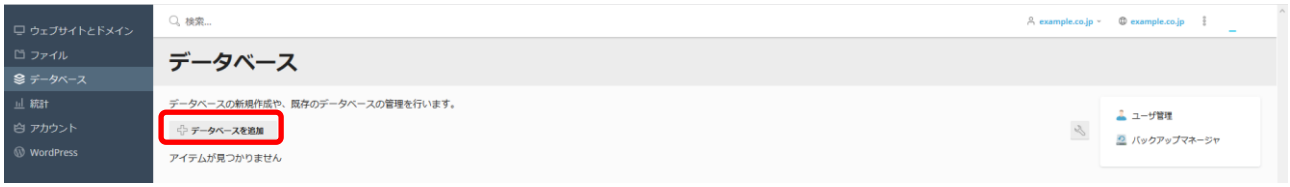
3.9.1　新しいデータベースの追加

データベースを利用するためには、以下の手順を実行します。

1. 左ナビゲーションペイン内［ウェブサイトとドメイン］をクリックし、［データベース］アイコンをクリックします。



2. ［データベースを追加］をクリックします。



3. 任意のデータベース名、データベースユーザー名およびパスワードを入力し、[OK] をクリックします。

認証に使用するパスワードを入力します。パスワードは半角英数 大文字・小文字・数字・特殊文字の組み合わせで 8 文字以上指定します。空欄、2 バイト文字、引用記号（’）やデータベースユーザー名と同じ文字列を含めることはできません。

[生成]ボタンはシステム側でパスワードをランダム生成する場合にクリックします。任意入力する場合はクリック不要です。

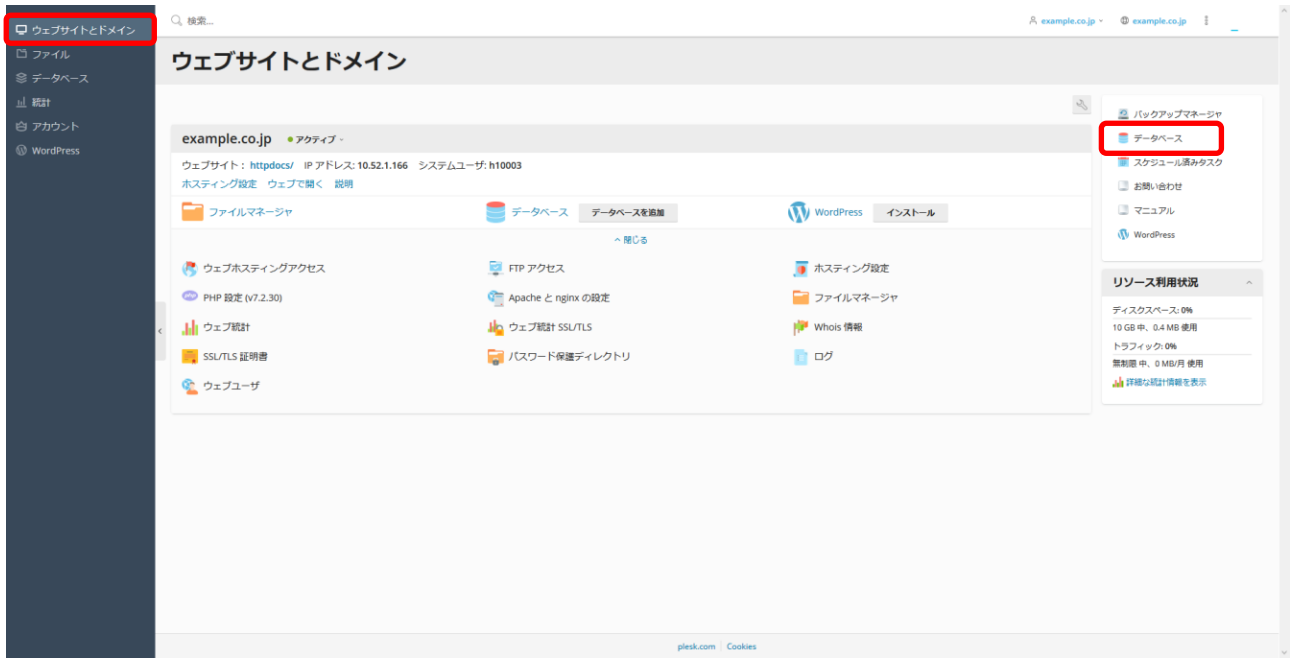
[表示]ボタンは新パスワードを表示させます。パスワードを表示させない場合はクリック不要です。

4. サイトに新しいデータベースならびにデータベースユーザーが追加され、データベース機能が利用可能となります。

3.9.2　データベース管理ツールの起動

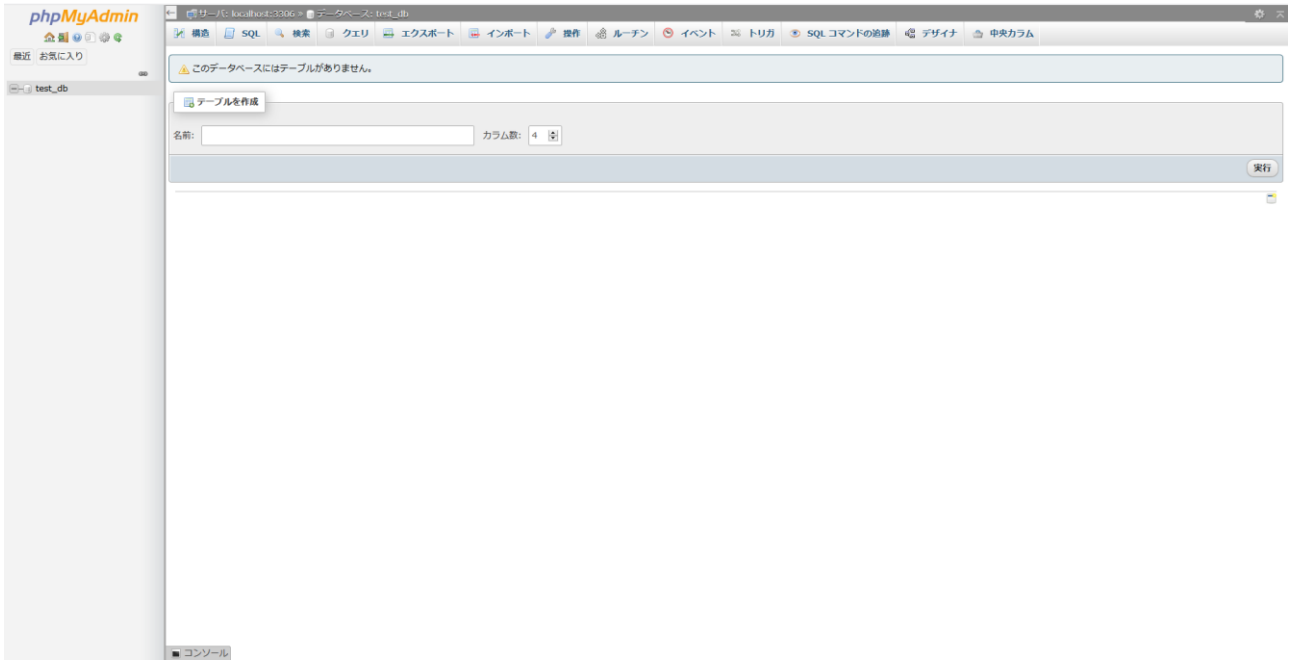
ホスティングサービスでは、MySQL、データベースをブラウザ上で管理できる GUI ツール phpMyAdmin をご提供しています。

1. 左ナビゲーションペイン内［ウェブサイトとドメイン］をクリックし、［データベース］アイコンをクリックします。



2. ［phpMyAdmin］アイコンをクリックします。

3. 別ウィンドウで phpMyAdmin のトップページが表示されます。



phpMyAdmin の操作方法についてはサポート外となります。

第 4 章　その他の機能

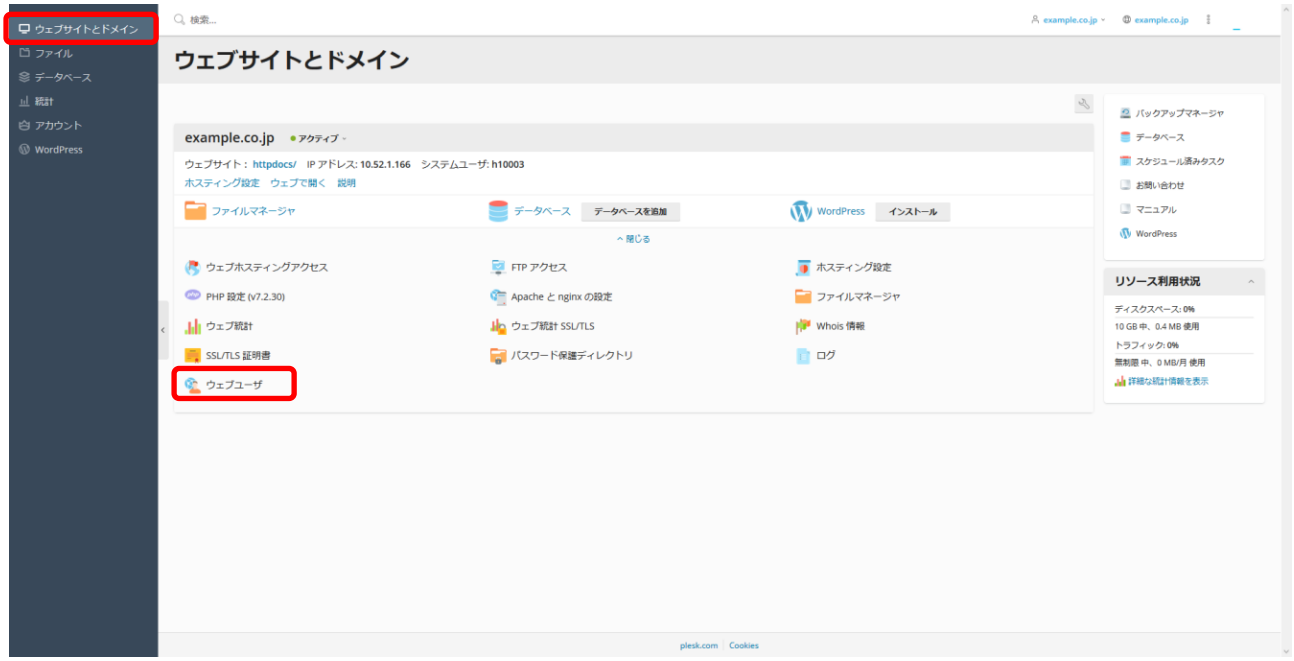
4.1　ユーザーに Web 用領域を提供する

ユーザーに Web 用の領域を提供する場合には、ユーザーが FTP で利用できるようにウェブユーザを登録します。

4.1.1　ウェブユーザの登録方法

ここでは、ウェブユーザを登録する方法について説明します。

1. 左ナビゲーションペイン内［ウェブサイトとドメイン］をクリックし、［ウェブユーザ］をクリックします。



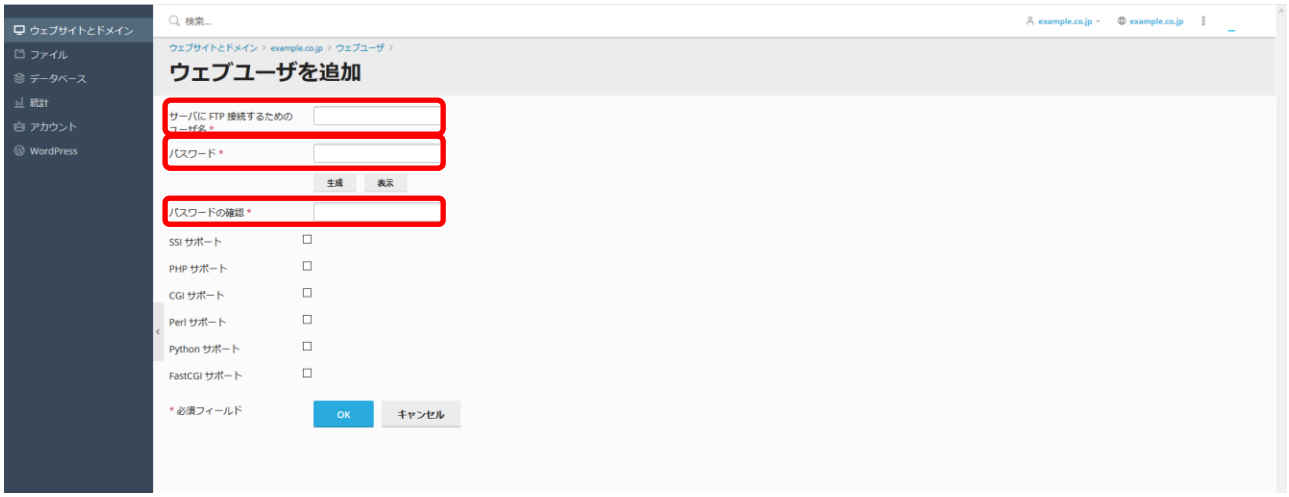
2. ウェブユーザ画面が表示されますので、［ウェブユーザを追加］をクリックします。

ウェブユーザ名には半角英数小文字と"."(ピリオド) "-"(ハイフン) "_"(アンダーバー)を使用できます。

認証に使用するパスワードを入力します。パスワードは半角英数 大文字・小文字・数字・特殊文字の組み合わせで 8 文字以上指定します。空欄、2 バイト文字、引用記号（’）やユーザー名と同じ文字列を含めることはできません。

ウェブユーザ名と同じパスワードは設定できません。また、一部にウェブユーザ名を含むパスワードも設定できません。

3. 「サーバに FTP 接続するためのユーザ名」、「新規パスワード」「パスワードの確認」を入力します。
また、スクリプトの使用を許可する場合に、該当する項目にチェックを入れます。



4. OK ボタンをクリックすると、新規ウェブユーザーが追加されます。

[生成]ボタンはシステム側でパスワードをランダム生成する場合にクリックします。任意入力する場合はクリック不要です。

[表示]ボタンは新パスワードを表示させます。パスワードを表示させない場合はクリック不要です。

ユーザーは、FTP ソフトを用いてコンテンツをアップロードするため
管理者は、ウェブユーザ名・パスワードをユーザーへ通知してください。

5. FTP ソフト、又は Web 管理画面ファイルマネージャにて、作成した Web 領域に Web データをアップロードします。

6. アップロード後、ブラウザソフトのアドレスバーに **http://www.お客様ドメイン/~ウェブユーザ名/** を入力しアクセスすると、アップロードした Web ページが表示されます。

4.2　サイトの利用状況を確認する

ここでは、Web 管理画面上でサイトの利用状況を確認する方法について説明します。

お客様ホームページへのアクセス状況を知りたい場合は、第 3 章 3.5「アクセス状況を確認する」をご覧ください。

4.2.1　レポートの表示

1.　左ナビゲーションペイン内［統計］をクリックします。

2.　［追加情報］欄の各アイコンをクリックすると、詳細画面が表示されます。

	FTP 統計	FTP 利用状況レポートを別ウィンドウで表示します。
	データ転送統計	お客様ドメインのトラフィックの当月使用状況を表示します。
	ウェブ統計	Webalizer による統計レポートを別ウィンドウで表示します。 詳しくは、第 3 章 3.5.2「Webalizer」をご参照ください。

4.3　サイトのバックアップと復元

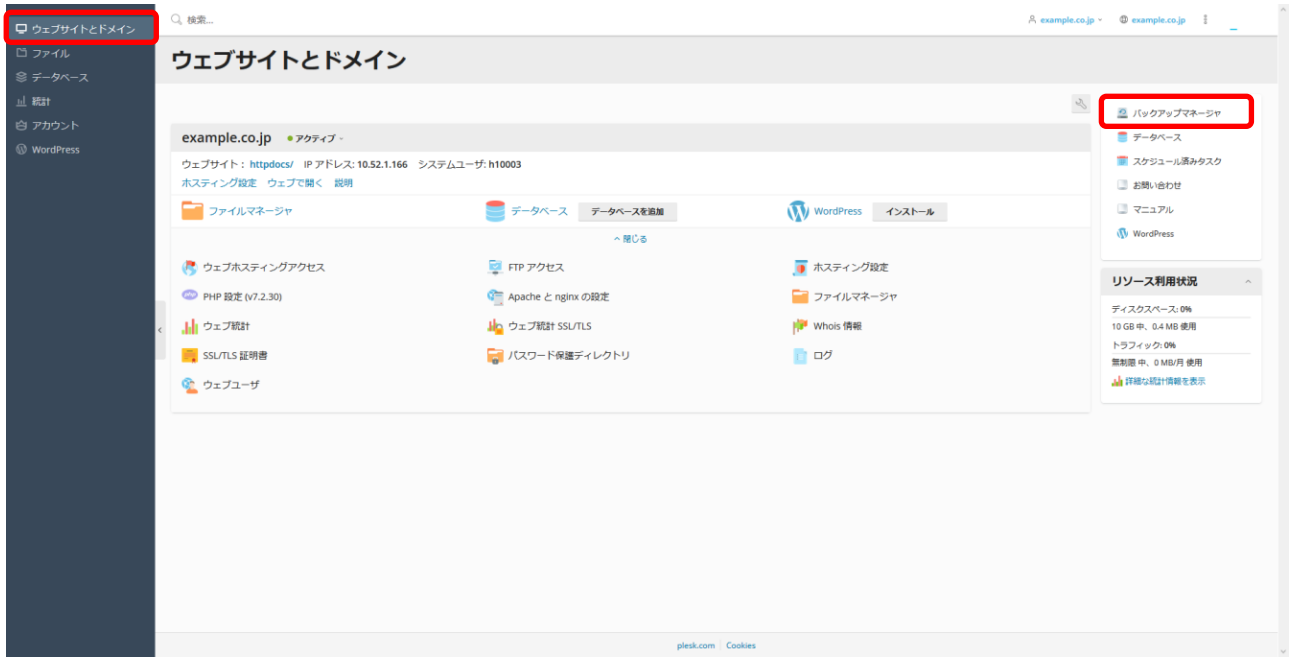
ここでは、サイトのバックアップと復元を行う方法について説明します。バックアップしたデータはサーバー上に保存され、必要に応じてお使いのコンピュータにダウンロードすることもできます。

機器障害が発生した際はサーバー設定の初期状態まで復旧を行います。お客様が作成・登録されたアカウント設定、ウェブコンテンツの保証は行ないません。お客様のデータを保護するため、**定期的にバックアップを行って頂きますようお願いします**。

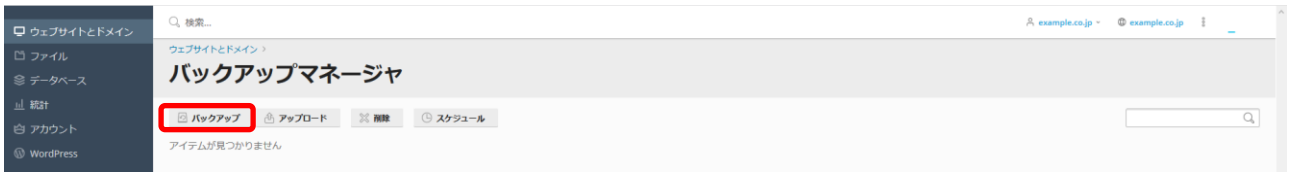
4.3.1　バックアップ

サイトのバックアップを作成するには以下の操作を実行します。

1. 左ナビゲーションペイン内［ウェブサイトとドメイン］をクリックし、［バックアップマネージャ］アイコンをクリックします。

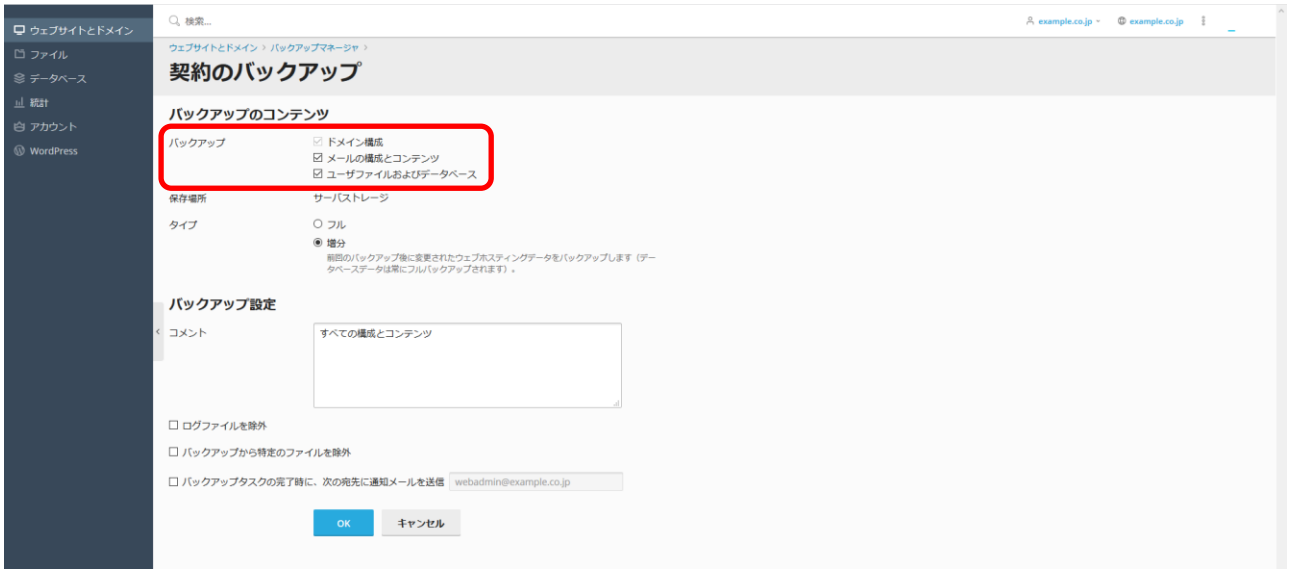


2. バックアップマネージャ画面が表示されますので、［バックアップ］をクリックします。



＜バックアップのコンテンツ＞

3. ［ドメイン構成］［メールの構成とコンテンツ］［ユーザファイルおよびデータベース］から、必要なものにチェックを入れます。



[ドメイン構成]を選択した場合は、Plesk 上のドメイン設定のみバックアップ実行されます。

4. ［フル］［増分］のどちらかを選択します。

[増分]を選択した場合は、前回のバックアップ後に変更されたウェブホスティングデータをバックアップします（データベースデータは常にフルバックアップされます）。

＜バックアップ設定＞

5. 必要な場合はバックアップファイルの説明（コメント）を入力します。デフォルトのままでも問題ありません。

6. 必要な場合は［ログファイルを除外］にチェックを入れます。

7. 必要な場合は［バックアップから特定のファイルを除外］にチェックを入れ、特定のファイルを指定します。

ウェブスペース内のファイルのみを除外できます。
ウェブスペースのルートを基準にして相対パスを指定します。
個々のファイルはコンマで区切ってください。
マスクシンボルの使用が許可されます（例： /somedir/log*）。

8. 必要な場合は［バックアップタスクの完了時に、次の宛先に通知メールを送信］に、チェックを入れ、通知を送信したいメールアドレスを入力します。

9. OK ボタンをクリックします。

10. バックアップが開始し、バックアップマネージャ画面に戻ります。取得したバックアップファイルが追加表示されたことが確認できれば、バックアップは終了となります。

ファイル名の右側に表示された ボタンをクリックし、お使いのコンピュータにバックアップファイルをダウンロードして保存しておくことを推奨します。

4.3.2　復元

サイトを復元（リストア）するには以下の操作を実行します。

サイトの復元を行うと、バックアップ作成後に追加されたアカウントや Web コンテンツなどの設定は消去されます。あらかじめご了承ください。

1. 左ナビゲーションペイン内［ウェブサイトとドメイン］をクリックし、［バックアップマネージャ］アイコンをクリックします。

2. バックアップマネージャ画面が表示されますので、取得したバックアップファイルの一覧から、復元したいバックアップファイルの作成日をクリックします。

3. バックアップファイルの情報が表示されますので、[サイト] の [使用可能]]内にあるオブジェクトをクリックします。クリックしたオブジェクトが [選択済み] へ移動したことを確認した上で [復元] をクリックします。復元を中断する場合は [キャンセル] をクリックします。

4. 復元が開始され、バックアップマネージャ画面に戻ります。

5. 復元が完了すると復元結果がウィンドウに表示されます。

4.4　ドメイン管理者のパスワードを変更する

ここでは、Web 管理画面のログインパスワードを変更する方法について説明します。

セキュリティを高めるために複雑なパスワードへ変更をお願いします。

1.　ヘッダのドメイン名をクリックし、［プロファイルを編集］をクリックします。

2.　「パスワード」、「パスワードの確認」ボックスに新パスワードを入力します。

認証に使用するパスワードを入力します。パスワードは半角英数 大文字・小文字・数字・特殊文字の組み合わせで 8 文字以上指定します。空欄、2 バイト文字、引用記号（’）やユーザー名と同じ文字列を含めることはできません。

[生成]ボタンはシステム側でパスワードをランダム生成する場合にクリックします。任意入力する場合はクリック不要です。

[表示]ボタンは新パスワードを表示させます。パスワードを表示させない場合はクリック不要です。

3.　OK ボタンをクリックすると、新しいパスワードが反映されます。

4.5　ドメイン管理者のメールアドレスを登録・変更する

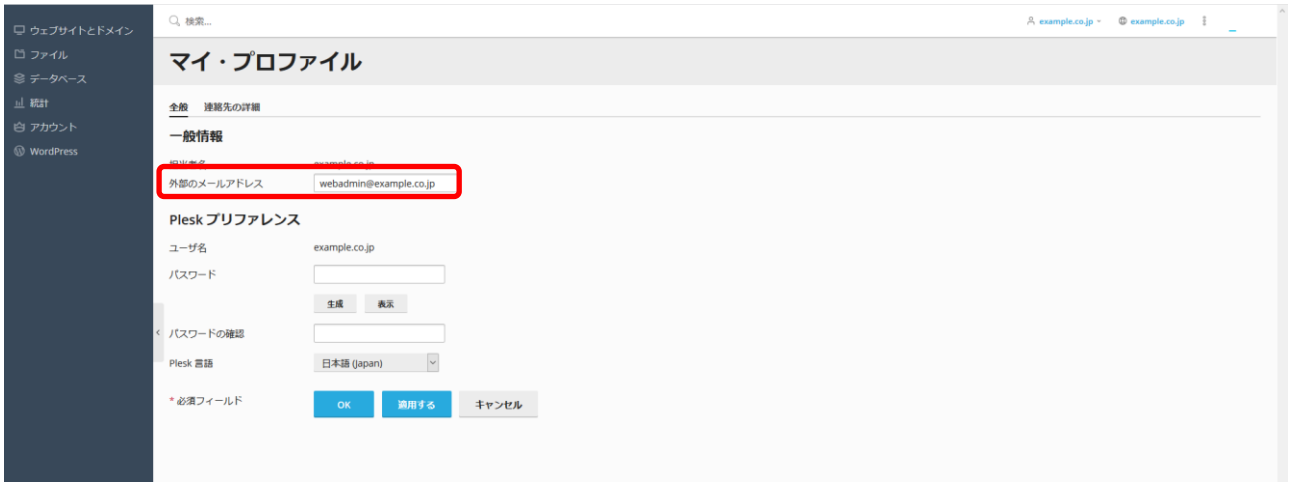
ホスティングサービスでは、Web 管理画面へログインするためのパスワードを紛失した場合のリマインダーをメールでお送りします。

お送りする宛先はドメイン管理者のメールアドレスとなります。

ドメイン管理者のメールアドレスは Web 管理画面上で自由に変更することができますので、リマインダーメールを別のメールアドレスで受信したい場合、次の方法でドメイン管理者のメールアドレスを変更してください。

1.　ヘッダのドメイン名をクリックし、[プロファイルを編集] をクリックします。

2.　「一般情報」グループの「外部のメールアドレス」欄に任意のメールアドレスを入力します。



3.　OK ボタンをクリックすると、ドメイン管理者のメールアドレスが登録されます。

4.6　パスワードを再発行する

Web 管理画面へのログインパスワードを忘れてしまった場合、管理者のメールアドレスに、パスワード再取得用リンクを記載したメールを送付することができます。

1. ログイン画面にアクセスします。[パスワードを忘れた場合] をクリックすると、メールアドレス入力画面が表示されます。

2. Web 管理画面のパスワード変更メールを送信する場合は、ドメイン管理者のメールアドレスを入力します。

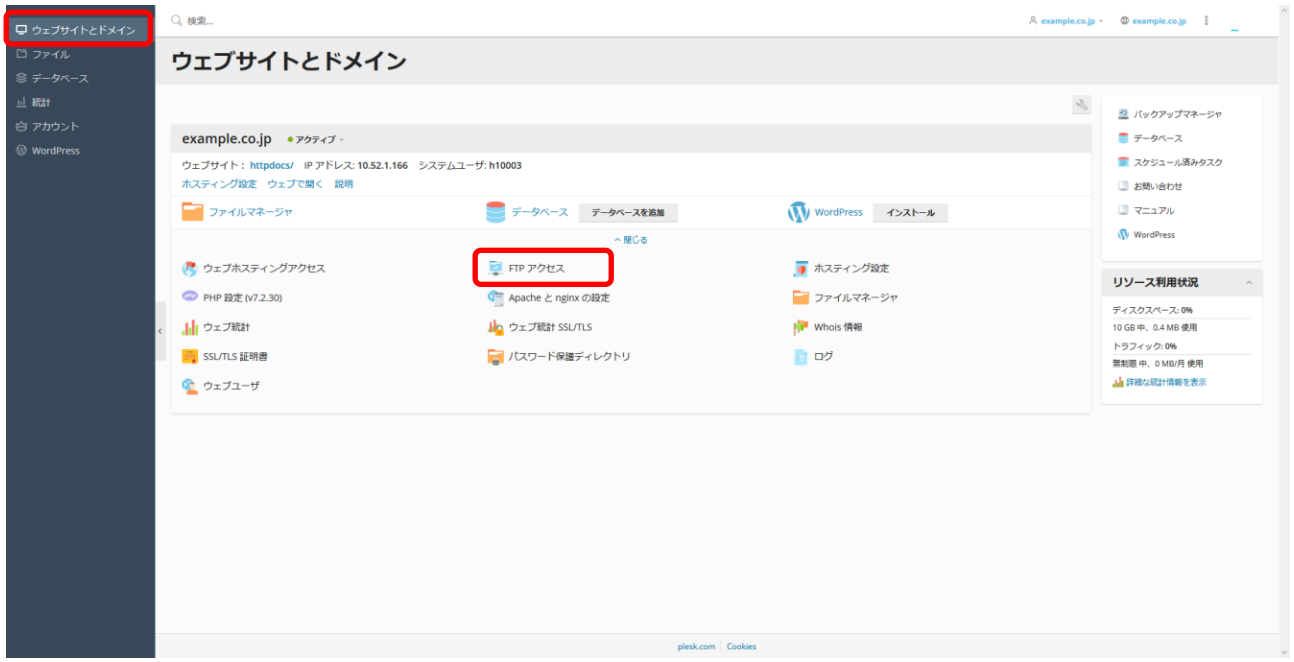
3. 送信 ボタンをクリックすると、パスワード再取得用のリンクを記載したメールが、所定のメールアドレスに送信されます。

4.7　FTP のパスワードを変更する

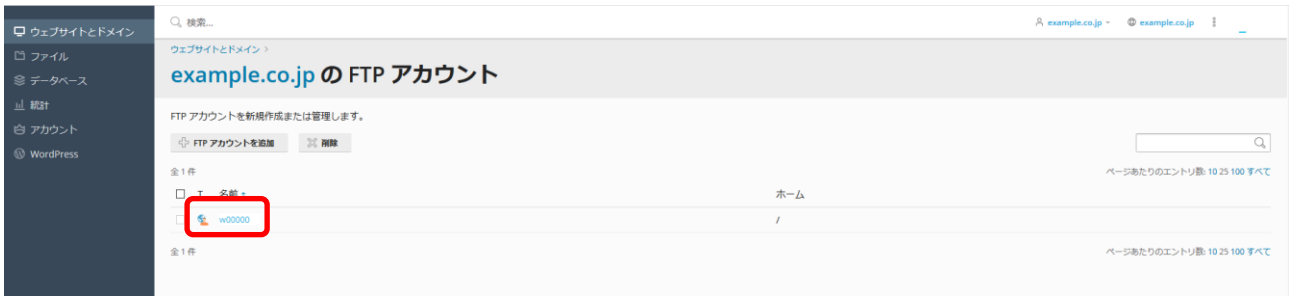
ここでは、FTP のパスワードを変更する方法について説明します。

セキュリティを高めるために複雑なパスワードへ変更をお願いします。

1. ナビゲーションペイン内［ウェブサイトとドメイン］をクリックし、［FTP アクセス］アイコンをクリックします。



2. FTP アカウント画面が表示されますので、変更対象の FTP アカウント名をクリックします。



3. 「パスワード」、「パスワードの確認」ボックスに、新たに設定したいパスワードを入力します。

認証に使用するパスワードを入力します。パスワードは半角英数 大文字・小文字・数字・特殊文字の組み合わせで 8 文字以上指定します。空欄、2 バイト文字、引用記号（’）や FTP ユーザー名と同じ文字列を含むパスワードは設定できません。

[生成]ボタンはシステム側でパスワードをランダム生成する場合にクリックします。任意入力する場合はクリック不要です。

[表示]ボタンは新パスワードを表示させます。パスワードを表示させない場合はクリック不要です。

4. OK ボタンをクリックすると、新しいパスワードが反映されます。

Windows、Internet Explorer、は Microsoft Corporation の登録商標です

※　その他、本マニュアルに記載されている会社名、製品名、サービス名、およびロゴマーク等は、いずれも各社の商標または登録商標です。
※　本マニュアルの画面や文字列にサンプルとして使用している会社名、氏名等は全て架空のものです。

お問い合わせ先

リコージャパン株式会社　リコープロバイダ担当

ご質問はリコーセンターサービスホームページのお問い合わせフォームよりお願いいたします

お問い合わせフォーム　https://itkeeper.ricoh.co.jp/isp2/contact.html

フリーダイヤル　0120-060-799

受付時間　**月曜～金曜　8:30　～　18:00**

（年末、年始、および弊社の定める休日を除く）

(C) Ricoh Company, Ltd / RICOH JAPAN Corporation